

大 学 院 要 覧

2011 (平成23) 年度

目 次

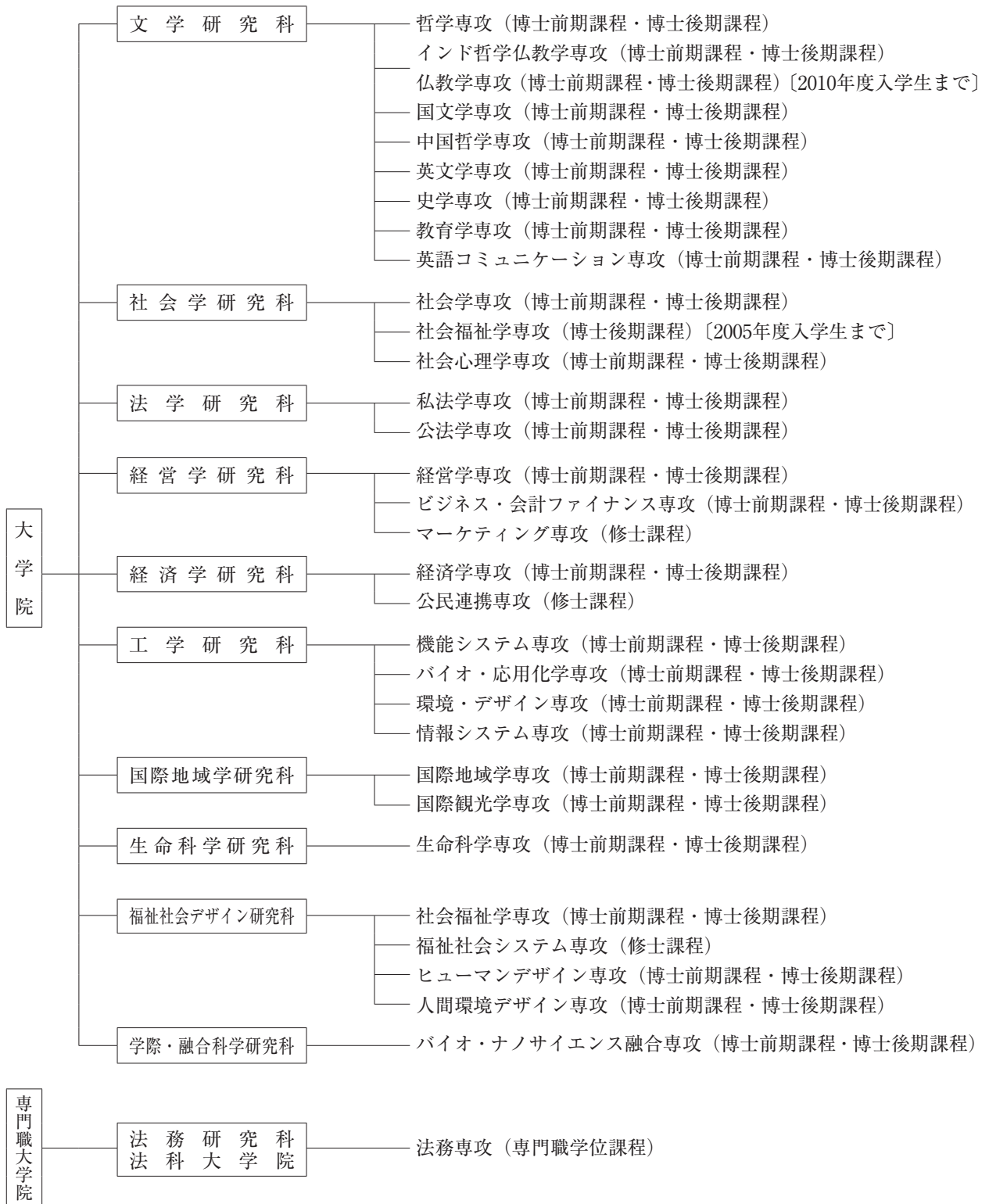
大学院の組織図	4
2011（平成23）年度大学院行事予定	5
Ⅰ 教員組織	17
Ⅱ 大学院における教育活動	27
1. 教育方針・修了要件	28
2. 授業時間・窓口時間・休講	29
3. 履修・成績評価・進級	30
4. 学位請求論文（修士学位論文・特定課題研究論文・博士学位請求論文）	33
5. 博士後期課程研究報告書	42
6. 学籍	43
7. 委託聴講生制度（特別科目履修生）	46
8. 「首都大学院コンソーシアム協定聴講生」制度	47
9. 研究指導委託制度	47
10. 大学共同利用機関における履修と単位認定（対象：史学専攻）	48
11. 教育職員免許状	48
12. 大学院紀要	52
13. その他（事務連絡・学生証・証明書の発行等）	53
14. 博士後期課程への学内推薦について	55
15. 厚生労働大臣指定教育訓練講座（教育訓練給付金制度）	55
Ⅲ 専攻別教育課程表	57
文学研究科	57
哲学専攻	57
インド哲学仏教学専攻	61
仏教学専攻	61
国文学専攻	65
中国哲学専攻	69
英文学専攻	73
史学専攻	77
教育学専攻	81
英語コミュニケーション専攻	85
社会学研究科	89
社会学専攻	89
社会福祉学専攻	97
社会心理学専攻	99
法学研究科	105
私法学専攻	105
公法学専攻	109
経営学研究科	115
経営学専攻	115

ビジネス・会計ファイナンス専攻	121
マーケティング専攻	129
経済学研究科	135
経済学専攻	135
公民連携専攻	141
工学研究科	145
機能システム専攻	145
バイオ・応用化学専攻	149
環境・デザイン専攻	153
情報システム専攻	157
国際地域学研究科	161
国際地域学専攻	161
国際観光学専攻	165
生命科学研究科	169
生命科学専攻	169
福祉社会デザイン研究科	173
社会福祉学専攻	173
福祉社会システム専攻	177
ヒューマンデザイン専攻	182
人間環境デザイン専攻	191
学際・融合科学研究科	195
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	195
Ⅳ 学則等	199
大学院学則	200
東洋大学大学院 研究科・専攻の人材養成に関する目的及び教育研究上の目的	216
学位規則	222
東洋大学大学院奨学生規程	227
東洋大学大学院学生研究発表奨励金規程	229
東洋大学大学院学生の取り扱いに関する規程	231
東洋大学大学院学生の留学に関する規程	233



本書の記載内容は、2011（平成23）年4月1日現在のものであり、変更となる場合があります。変更等は随時、掲示やホームページなどにより行う予定です。併せて確認のうえ、ご熟読ください。学生生活に関しては『学生生活ハンドブック』を参照してください。

大学院の組織図



2011(平成23)年度大学院行事予定

2011 (平成23) 年度 大学院行事予定

【文学・社会学・法学・経営学 (ビジネス・会計ファイナンス専攻中小企業診断士登録養成コース除く)・
経済学〔経済学専攻〕・福祉社会デザイン〔社会福祉学・福祉社会システム専攻〕研究科】

		日	月	火	水	木	金	土	前期・春学期 (4月1日～9月23日)	
4月							1	2	2日 (土)	就学手続・事務局ガイダンス (2011年4月入学生)
		3	4	5	6	7	8	9	6日 (水)	入学式 (日本武道館) (2011年4月入学生)
		10	11	12	13	14	15	16	8日 (金)	前期・春学期授業開始 進級手続 (成績発表) 開始
		17	18	19	20	21	22	23	8日 (金)～15日 (金)	履修登録期間 (最終日 AM9:00まで) (予定)
		24	25	26	27	28	29	30	14日 (木)～16日 (土)	博士論文 (甲) 提出期間 (後期課程9月修了予定者)
									23日 (土)	修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日
								30日 (土)	臨時休業 (休講)	
5月		1	2	3	4	5	6	7	2日 (月)	臨時休業 (休講)
		8	9	10	11	12	13	14	中旬	修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 (9月修了予定者※)
		15	16	17	18	19	20	21		紀要論文執筆要領配布
		22	23	24	25	26	27	28		
		29	30	31						
6月				1	2	3	4		6日 (月)	学祖祭 (通常授業日)
		5	6	7	8	9	10	11	25日 (土)	紀要論文題目提出締切日 (紀要論文執筆予定者)
		12	13	14	15	16	17	18		
		19	20	21	22	23	24	25		
		26	27	28	29	30				
7月						1	2		14日 (木)～16日 (土)	修士論文・特定課題研究論文提出期間 (9月修了予定者※)
		3	4	5	6	7	8	9	22日 (金)・23日 (土)・ 26日 (火)～30日 (土)	補講・集中講義期間
		10	11	12	13	14	15	16	25日 (月)	前期・春学期授業終了
		17	18	19	20	21	22	23	29日 (金)	月曜日振替補講
		24	25	26	27	28	29	30	7月下旬頃～8月上旬頃	修士論文・特定課題研究論文口述試験 (9月修了予定者※)
		31								
8月		1	2	3	4	5	6		1日 (月)～5日 (金)	補講・集中講義期間
		7	8	9	10	11	12	13	6日 (土)	夏季休暇開始
		14	15	16	17	18	19	20	26日 (金)	修了要件充足者発表・成績発表 (博士前期・修士課程9月修了予定者※)
		21	22	23	24	25	26	27		
		28	29	30	31					
9月					1	2	3		9日 (金)	修了決定者発表 (9月修了決定者) 博士後期課程研究報告書提出締切日 (後期課程9月修了決定者)
		4	5	6	7	8	9	10	22日 (木)	学位記授与式・卒業式 (白山キャンパス) (9月修了決定者)
		11	12	13	14	15	16	17		入学式・就学手続・事務局ガイダンス (白山キャンパス) (2011年秋入学生)
		18	19	20	21	22	23	24	24日 (土)	夏季休暇終了 後期・秋学期授業開始
		25	26	27	28	29	30		26日 (月)～28日 (水)	紀要論文提出期間 (紀要論文題目届提出者)
									24日 (土)～10月3日 (月)	秋学期履修登録期間 (最終日 AM9:00まで) (予定) ※

太数字：通常授業日 □数字：補講・集中講義日 網掛け数字：休日・長期休暇・大学休業日等
※：経営学研究科〔経営学専攻は2009年度以降入学生〕、福祉社会デザイン研究科〔社会福祉学専攻・福祉社会システム専攻〕

白山キャンパス 〈通年制・セメスタ制〉

							後期・秋学期 (9月24日～3月31日)		
	日	月	火	水	木	金	土		
10月							1	8日 (土) 修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日 (2011年秋入学生・秋学期復学者)	
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15	10日 (月:祝日) 通常授業日	
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
11月			1	2	3	4	5	2日 (水) 3日 (木)～5日 (土) 6日 (日) 5日 (土)	大学祭準備日 (休講) 大学祭 (休講) 大学祭整理日 哲学堂祭 (休講)
	6	7	8	9	10	11	12	7日 (月)～9日 (水)	博士論文 (甲) 提出期間 (後期課程3月修了予定者)
	13	14	15	16	17	18	19	上旬	修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 (3月修了予定者)
	20	21	22	23	24	25	26	23日 (水:祝日)	創立記念日 (通常授業日)
	27	28	29	30				25日 (金)・26日 (土)・28日 (月)	紀要論文修正原稿提出締切日 (9月紀要論文提出者)
12月					1	2	3	22日 (木)	12月授業終了日
	4	5	6	7	8	9	10	24日 (土)	冬季休暇開始
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
1月	1	2	3	4	5	6	7	5日 (木) 6日 (金)	冬季休暇終了 授業再開
	8	9	10	11	12	13	14	7日 (土)・10日 (火)・11日 (水)	修士論文・特定課題研究論文提出期間 (3月修了予定者)
	15	16	17	18	19	20	21	7日 (土)・10日 (火)・11日 (水)	博士後期課程研究報告書提出期間 (博士後期課程在学者)
	22	23	24	25	26	27	28	17日 (火)・21日 (土)～31日 (火)	補講・集中講義期間
	29	30	31					20日 (金) 24日 (火)	後期・秋学期授業終了 金曜日振替補講
								1月下旬頃～2月上旬頃	修士論文・特定課題研究論文口述試験 (3月修了予定者)
2月				1	2	3	4	2日 (木)・3日 (金)	補講・集中講義期間
	5	6	7	8	9	10	11	4日 (土)	春季休暇開始
	12	13	14	15	16	17	18	29日 (水)	修了要件充足者発表・成績発表 (博士前期・修士課程3月修了予定者)
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29					
3月					1	2	3	14日 (水)	修了決定者発表 (3月修了決定者)
	4	5	6	7	8	9	10	23日 (金)	学位記授与式・卒業式 (日本武道館予定) (3月修了決定者)
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		

通年制：文学研究科・社会学研究科・法学研究科・経営学研究科〔経営学専攻（2008年度入学生まで）〕・経済学研究科〔経済学専攻〕
 セメスタ制：経営学研究科〔経営学専攻は2009年度以降入学生〕、福祉社会デザイン研究科〔社会福祉学専攻・福祉社会システム専攻〕

2011（平成23）年度 大学院行事予定

【経済学研究科 公民連携専攻】

							春学期（4月1日～9月23日）	
日	月	火	水	木	金	土		
4月					1	2	2日（土）	就学手続・事務局ガイダンス（2011年4月入学生）
	3	4	5	6	7	8	9	6日（水） 入学式（日本武道館）（2011年4月入学生）
	10	11	12	13	14	15	16	8日（金） 春学期授業開始 進級手続（成績発表）開始
	17	18	19	20	21	22	23	8日（金）～15日（金） 履修登録期間（最終日 AM9:00まで）（予定）
	24	25	26	27	28	29	30	23日（土） 修士論文・特定課題研究論文題目届提出締切日
	24	25	26	27	28	29	30	30日（土） 臨時休業（休講）
5月	1	2	3	4	5	6	7	2日（月） 臨時休業（休講）
	8	9	10	11	12	13	14	中旬 修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 （9月修了予定者） 紀要論文執筆要領配布
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
6月			1	2	3	4	6日（月）	学祖祭（通常授業日）
	5	6	7	8	9	10	11	25日（土） 紀要論文題目提出締切日 （紀要論文執筆予定者）
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
7月					1	2	14日（木）～16日（土）	修士論文・特定課題研究論文提出期間 （9月修了予定者）
	3	4	5	6	7	8	9	22日（金）・23日（土）・26日（火）～ 30日（土） 補講・集中講義期間
	10	11	12	13	14	15	16	25日（月） 春学期授業終了
	17	18	19	20	21	22	23	29日（金） 月曜日振替補講
	24	25	26	27	28	29	30	7月下旬頃～8月上旬頃 修士論文・特定課題研究論文口述試験 （9月修了予定者）
	31							
8月		1	2	3	4	5	6	1日（月）～5日（金） 補講・集中講義期間
	7	8	9	10	11	12	13	6日（土） 夏季休暇開始
	14	15	16	17	18	19	20	26日（金） 修了要件充足者発表（白山キャンパス） （9月修了予定者）
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
9月				1	2	3	9日（金）	修了決定者発表（白山キャンパス） （9月修了決定者）
	4	5	6	7	8	9	10	22日（木） 学位記授与式・卒業式（白山キャンパス） （9月修了決定者） 入学式・就学手続・事務局ガイダンス（白山キャンパス）（2011年秋入学生） 夏季休暇終了
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	24日（土） 秋学期授業開始
	25	26	27	28	29	30		26日（月）～28日（水） 紀要論文提出期間（紀要論文題目届提出者）
	25	26	27	28	29	30		24日（土）～10月3日（月） 秋学期履修登録期間（最終日 AM9:00まで）（予定）

太数字：通常授業日 □数字：補講・集中講義日 網掛け数字：休日・長期休暇・大学休業日等

(大手町サテライト・白山キャンパス) 〈セメスタ制〉

		日	月	火	水	木	金	土	秋学期 (9月24日～3月31日)	
10月								1	8日 (土)	修士論文・特定課題研究論文題目届提出締切日 (2011年秋入学生・秋学期復学者)
		2	3	4	5	6	7	8	10日 (月：祝日)	通常授業日
		9	10	11	12	13	14	15		
		16	17	18	19	20	21	22		
		23	24	25	26	27	28	29		
		30	31							
11月			1	2	3	4	5		2日 (水)・4日 (金)	通常授業日
		6	7	8	9	10	11	12	5日 (土) 6日 (日)	大学祭・哲学堂祭 (休講) 大学祭整理日
		13	14	15	16	17	18	19	上旬	修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 (3月修了予定者)
		20	21	22	23	24	25	26	23日 (水：祝日)	創立記念日 (通常授業日)
		27	28	29	30				25日 (金)・26日 (土)・28日 (月)	紀要論文修正原稿提出締切日 (9月紀要論文提出者)
12月					1	2	3		22日 (木)	12月授業終了日
		4	5	6	7	8	9	10	24日 (土)	冬季休暇開始
		11	12	13	14	15	16	17		
		18	19	20	21	22	23	24		
		25	26	27	28	29	30	31		
1月		1	2	3	4	5	6	7	5日 (木) 6日 (金)	冬季休暇終了 授業再開
		8	9	10	11	12	13	14	12日 (木)～14日 (土)	修士論文・特定課題研究論文提出期間 (3月修了予定者)
		15	16	17	18	19	20	21	17日 (火)・21日 (土)～31日 (火) 20日 (金)	補講・集中講義期間 秋学期授業終了
		22	23	24	25	26	27	28	24日 (火)	金曜日振替補講
		29	30	31					1月下旬頃～2月上旬頃	修士論文・特定課題研究論文口述試験 (3月修了予定者)
2月				1	2	3	4		2日 (木)・3日 (金)	補講・集中講義期間
		5	6	7	8	9	10	11	4日 (土)	春季休暇開始
		12	13	14	15	16	17	18	29日 (水)	修了要件充足者発表・成績発表 (白山キャンパス) (3月修了予定者)
		19	20	21	22	23	24	25		
		26	27	28	29					
3月					1	2	3		14日 (水)	修了決定者発表 (白山キャンパス) (3月修了決定者)
		4	5	6	7	8	9	10	23日 (金)	学位記授与式・卒業式 (日本武道館予定) (3月修了決定者)
		11	12	13	14	15	16	17		
		18	19	20	21	22	23	24		
		25	26	27	28	29	30	31		

2011（平成23）年度 大学院行事予定

【福祉社会デザイン研究科〔ヒューマンデザイン・人間環境デザイン専攻〕】

		日	月	火	水	木	金	土	春学期（4月1日～9月23日）	
4月							1	2	2日（土）	就学手続・ガイダンス
	3	4	5	6	7	8	9		6日（水） 8日（金）	入学式（日本武道館）〈2011年4月入学生〉 春学期授業開始
	10	11	12	13	14	15	16		8日（金）～15日（金）	履修登録期間
	17	18	19	20	21	22	23		14日（木）～16日（土）	博士論文（甲）提出期間 〈後期課程9月修了予定者〉
	24	25	26	27	28	29	30		23日（土） 30日（土）	修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日 臨時休業（休講）
	1	2	3	4	5	6	7		2日（月）	臨時休業（休講）
5月	8	9	10	11	12	13	14		中旬	修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 〈9月修了予定者〉
	15	16	17	18	19	20	21			紀要論文執筆要領配布
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30	31							
6月			1	2	3	4			6日（月）	学祖祭 通常授業日
	5	6	7	8	9	10	11		10日（金）	朝霞スポーツ大会（授業休講）
	12	13	14	15	16	17	18		25日（土）	紀要論文題目提出締切日 〈紀要論文執筆予定者〉
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30					
7月						1	2			
	3	4	5	6	7	8	9		14日（木）～16日（土）	修士論文・特定課題研究論文提出期間 〈9月修了予定者〉
	10	11	12	13	14	15	16		23日（土）・26日（火）～28日（木）	補講・集中講義
	17	18	19	20	21	22	23		25日（月）	春学期授業終了
	24	25	26	27	28	29	30		29日（金）	夏季休暇開始
	31								7月下旬頃～8月上旬頃	修士論文・特定課題研究論文口述試験 〈9月修了予定者〉
8月		1	2	3	4	5	6		26日（金）	修了要件充足者発表 〈9月修了予定者〉
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31						
9月					1	2	3		9日（金）	修了決定者発表 〈9月修了決定者〉
	4	5	6	7	8	9	10			博士後期課程研究報告書提出締切日 〈後期課程9月修了決定者〉
	11	12	13	14	15	16	17		22日（木）	学位記授与式・卒業式 〈9月修了決定者〉 夏季休暇終了
	18	19	20	21	22	23	24		24日（土） 24日（土）～30日（金）	秋学期授業開始・成績発表 秋学期履修登録期間
	25	26	27	28	29	30			26日（月）～28日（水）	紀要論文提出期間 〈紀要論文題目届提出者〉

太数字：通常授業日 □数字：補講・集中講義日 網掛け数字：休日・長期休暇・大学休業日等

朝霞キャンパス 〈セメスタ制〉

							秋学期 (9月24日～3月31日)		
	日	月	火	水	木	金	土		
10月							1	8日 (土)	修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日 (秋学期復学者)
	2	3	4	5	6	7	8	10日 (月：祝日)	通常授業日
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
11月			1	2	3	4	5	4日 (金) 5日 (土)	大学祭準備日 (授業休講) 大学祭 (授業休講)、哲学堂祭
	6	7	8	9	10	11	12	6日 (日) 7日 (月)～9日 (水)	大学祭 博士論文 (甲) 提出期間 (後期課程3月修了予定者)
	13	14	15	16	17	18	19	上旬	修士論文・特定課題研究論文提出要領配布 (3月修了予定者)
	20	21	22	23	24	25	26	23日 (水：祝日)	創立記念日
	27	28	29	30				25日 (金)・26日 (土)・28日 (月)	紀要論文修正原稿提出締切日 (9月紀要論文提出者)
					1	2	3	20日 (火)・24日 (土)	補講・集中講義
12月	4	5	6	7	8	9	10	22日 (木)	12月授業終了日
	11	12	13	14	15	16	17	26日 (月)	冬季休暇開始
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
1月	1	2	3	4	5	6	7	5日 (木) 6日 (金)	冬季休暇終了 授業再開
	8	9	10	11	12	13	14	7日 (土)・10日 (火)・11日 (水)	修士論文・特定課題研究論文提出期間 (3月修了予定者) 博士後期課程研究報告書提出期間 (博士後期課程在学者)
	15	16	17	18	19	20	21	20日 (金) 21日 (土)・23日 (月)～27日 (金)	秋学期授業終了 補講・集中講義
	22	23	24	25	26	27	28	28日 (土)	春季休暇開始
	29	30	31					1月下旬頃～2月上旬頃	修士論文・特定課題研究論文口述試験 (3月修了予定者)
2月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29					
3月					1	2	3	1日 (木)	修了要件充足者発表 (3月修了予定者)
	4	5	6	7	8	9	10	14日 (水)	修了決定者発表 (3月修了決定者)
	11	12	13	14	15	16	17	23日 (金)	学位記授与式・卒業式 (日本武道館予定) (3月修了決定者)
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		

2011（平成23）年度 大学院行事予定

【国際地域学研究科】

							春学期（4月1日～9月23日）				
日	月	火	水	木	金	土					
4月					1	2	6日（水）	入学式（日本武道館）〈平成23年4月入学生〉			
	3	4	5	6	7	8	9	8日（金）	春学期授業開始		
	10	11	12	13	14	15	16	8日（金）～14日（木）		春学期履修登録期間（最終日午前3:00まで）	
	17	18	19	20	21	22	23	30日（土）		臨時休業（授業休講）	
	24	25	26	27	28	29	30				
5月	1	2	3	4	5	6	7	2日（月）		臨時休業（授業休講）	
	8	9	10	11	12	13	14	9日（月）		博士論文（甲）提出期日〈後期課程9月修了予定者〉	
	15	16	17	18	19	20	21			修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日	
	22	23	24	25	26	27	28	中旬		修士論文・特定課題研究論文提出要領配布（9月修了予定者）	
	29	30	31							紀要論文執筆要領配布	
6月			1	2	3	4		6日（月）		学祖祭（授業実施）	
	5	6	7	8	9	10	11	25日（土）		紀要論文題目提出締切日〈紀要論文執筆予定者〉	
	12	13	14	15	16	17	18				
	19	20	21	22	23	24	25				
	26	27	28	29	30						
7月					1	2		11日（月）		修士論文・特定課題研究論文提出期日（9月修了予定者）	
	3	4	5	6	7	8	9	22日（金）・23日（土）		補講・集中講義期間	
	10	11	12	13	14	15	16	25日（月）		春学期授業終了	
	17	18	19	20	21	22	23	26日（火）～30日（土）		補講・集中講義期間	
	24	25	26	27	28	29	30	29日（金）		月曜日振替補講	
	31										
8月		1	2	3	4	5	6	1日（月）～5日（金）		補講・集中講義期間	
	7	8	9	10	11	12	13	6日（土）		夏季休暇開始	
	14	15	16	17	18	19	20	26日（金）		修了要件充足者発表（9月修了予定者）	
	21	22	23	24	25	26	27				
	28	29	30	31							
9月				1	2	3		9日（金）		修了決定者発表（9月修了決定者） 博士後期課程研究報告書提出締切日（後期課程9月修了決定者）	
	4	5	6	7	8	9	10	22日（木）		入学式（白山第2キャンパス）〈平成23年度秋学期入学生〉 学位記授与式・卒業式（白山第2キャンパス）（9月修了決定者）	
	11	12	13	14	15	16	17	24日（土）		夏季休暇終了 秋学期授業開始・春学期成績表等配付	
	18	19	20	21	22	23	24	24日（土）～10月1日（土）		秋学期履修登録期間（期間変更の場合あり）	
	25	26	27	28	29	30		26日（月）～28日（水）		紀要論文提出期間〈紀要論文題目届提出者〉	

太数字：通常授業日

太数字下線：曜日振替授業日

□数字：補講・集中講義日

網掛け数字：休日・長期休暇・大学休業日等

白山第2キャンパス 〈セメスタ制〉

		日	月	火	水	木	金	土	秋学期 (9月24日～3月31日)	
10月								1	10日 (月)	通常授業日
		2	3	4	5	6	7	8	28日 (金)	修士論文・特定課題研究論文題目届・博士後期課程研究題目届提出締切日 (平成23年秋入学生・秋学期復学者)
		9	10	11	12	13	14	15		
		16	17	18	19	20	21	22		
		23	24	25	26	27	28	29		
		30	31							
11月			1	2	3	4	5		2日 (水) 3日 (木)～5日 (土)	大学祭準備日 (授業休講) 大学祭 (授業休講)
		6	7	8	9	10	11	12	5日 (土) 6日 (日)	哲学堂祭 (授業休講) 大学祭整理日
		13	14	15	16	17	18	19	上旬 12日 (土)	修士論文・特定課程研究論文提出要領配布 (3月修了予定者) 博士論文 (甲) 提出期日 (後期課程3月修了予定者)
		20	21	22	23	24	25	26	23日 (水: 祝日)	創立記念日 (通常授業日)
		27	28	29	30				28日 (月)	紀要論文修正原稿提出締切日 (9月紀要論文提出者)
12月					1	2	3		22日 (木)	12月授業終了日
		4	5	6	7	8	9	10	24日 (土)	冬季休暇開始
		11	12	13	14	15	16	17		
		18	19	20	21	22	23	24		
		25	26	27	28	29	30	31		
1月		1	2	3	4	5	6	7	5日 (木) 6日 (金)	冬季休暇終了 授業再開
		8	9	10	11	12	13	14	7日 (土) 11日 (水)	修士論文・特定課題研究論文提出期日 (3月修了予定者) 博士後期課程研究報告書提出期日 (博士後期課程在学者)
		15	16	17	18	19	20	21	17日 (火) 21日 (土)～31日 (火)	補講・集中講義期間
		22	23	24	25	26	27	28	20日 (金)	秋学期授業終了
		29	30	31					24日 (火)	金曜日振替補講
2月				1	2	3	4		2日 (木)・3日 (金)	補講・集中講義期間
		5	6	7	8	9	10	11	4日 (土)	春季休暇開始
		12	13	14	15	16	17	18		
		19	20	21	22	23	24	25		
		26	27	28	29					
3月					1	2	3		1日 (木)	修了要件充足者発表 (3月修了予定者)
		4	5	6	7	8	9	10	15日 (木)	修了決定者発表 (3月修了決定者)
		11	12	13	14	15	16	17	23日 (金)	学位記授与式・卒業式 (日本武道館予定) (3月修了決定者)
		18	19	20	21	22	23	24	下旬	秋学期成績表等配付
		25	26	27	28	29	30	31		

行事予定に載っていない申請書・書類等の配布お知らせや提出予定日は掲示板でお知らせします。

工学研究科／学際・融合科学研究科（川越キャンパス）

春 学 期（4月1日～9月23日）			秋 学 期（9月24日～3月31日）		
月 日	曜日	行 事 等	月 日	曜日	行 事 等
4月1～25日	金～月	春学期納付金納入期間	9月22日	木	秋入学生就学手続日・新入生教育 （事務局ガイダンス）
2日	土	就学手続日・新入生教育（事務局ガイダンス）			入学式〈秋入学生〉
4・5・7日	月・火・木	健康診断	24日	土	秋学期授業開始
5～15日	火～金	4月入学生進級手続	24日～30日	土～金	秋学期履修登録（Web入力）期間（予定）
6日	水	入学式〈4月入学〉	10月3～14日	月～金	秋学期納付金納入期間
8日	金	春学期授業開始			秋入学生進級手続
8～14日	金～木	春学期履修登録（Web入力）期間（予定）	10日	月	体育の日（授業実施）
30日	土	臨時休業	11月4日	金	修士学位論文題目・博士後期課程研究題目 提出締切日〈秋入学生〉
5月2日	月	臨時休業	5日	土	哲学堂祭・大学祭準備日（休講）
6日	金	修士学位論文題目・博士後期課程研究題目 提出締切日〈4月入学生〉	6・7日	日・月	大学祭（休講）
30・31日	月・火	修士学位論文題目・博士後期課程研究題目 提出締切日〈4月入学生〉	8日	火	大学祭整理日（休講）
6月6日	月	博士學位請求論文（甲）提出締切日 〈9月修了〉	23日	水	創立記念日（授業なし）
29・30日	水・木	学祖祭（授業実施）	29・30日	火・水	博士學位請求論文（甲）提出締切日 〈3月修了〉
7月中旬		修士學位論文提出日〈9月修了〉	12月22日	木	12月の授業終了
8日	金	修士學位論文口述試験〈9月修了〉	24日	土	冬季休暇開始
		博士後期課程研究報告書提出締切日 〈秋入学〉	1月5日	木	冬季休暇終了
22日	金	博士後期課程研究報告書提出締切日 〈秋入学〉	6日	金	授業再開
23～29日	土～金	月曜の振替授業			博士後期課程研究報告書提出締切日 〈4月入学生〉
30日	土	春学期授業終了	13日	金	センター試験前日休講
9月1日	木	補講期間	14日	土	センター試験（休講）
15日	木	夏季休暇開始	15日	日	センター試験
22日	木	9月修了要件充足者発表（予定）	23日	月	秋学期授業終了
		春学期成績発表（日時は掲示で確認）	24～30日	火～月	補講期間
		9月修了決定者発表（予定）	27・30日	金・月	修士學位論文提出日〈3月修了〉
		学位記授与式・卒業式〈9月修了生〉	31日	火	春季休暇開始
		夏季休暇終了	2月上旬		修士學位論文口述試験〈3月修了〉
			3月1日	木	3月修了要件充足者発表（予定）
					秋学期成績発表（日時は掲示で確認）
			15日	木	3月修了決定者発表（予定）
			23日	金	学位記授与式・卒業式〈3月修了生〉

生命科学研究所 (板倉キャンパス) 〈セメスタ制〉

春 学 期			秋 学 期		
月 日	曜日	行 事 等	月 日	曜日	行 事 等
4月2日	土	就学手続・新入生教育	9月22日	木	就学手続・入学式・新入生教育 (秋入学)
6日	水	入学式	24日	土	秋学期授業開始
8日	金	春学期授業開始	9月下旬～ 10月上旬		秋学期履修登録 (Web 入力) 期間 (予定)
8～15日	金～金	春学期履修登録 (Web 入力) 期間			
30日	土	臨時休業	10月10日	月	体育の日 (授業実施)
5月2日	月	臨時休業	11月2日	水	修士論文題目・博士後期課程研究題目 提出締切日 (秋入学)
6日	金	修士論文題目・博士後期課程研究題目 提出締切日 (4月入学生)	4日	金	大学祭準備日 (休講)
27日	金	博士学位請求論文 (甲) 提出日 (9月修了)	5日	土	大学祭 (休講)・哲学堂祭
6月6日	月	学祖祭 (授業実施)	6日	日	大学祭
7月15日	金	修士論文提出日 (9月修了)	7日	月	大学祭整理日 (休講)
22日・23日 26～29日	金～土 火～金	補講・集中講義	23日	水	創立記念日 (勤労感謝の日)
25日	月	春学期授業終了	25日	金	博士学位請求論文 (甲) 提出日 (3月修了)
30日	土	夏季休暇開始	12月23日	金	天皇誕生日 (授業実施)
8月25日	木	修了要件充足者発表 (9月修了)	24日	土	冬季休暇開始
9月9日	金	修了決定者発表 (9月修了) 博士後期課程研究報告書提出締切日 (9月修了決定者)	1月5日	木	冬季休暇終了
22日	木	学位記授与式・卒業式 (9月修了生) 夏季休暇終了	6日	金	授業再開
24日・26日・27日	土・月・火	春学期成績発表・履修関係書類配布	10日	火	博士後期課程研究報告書提出締切日 (在学生)
			11日	水	修士論文提出日 (3月修了)
			13日	金	大学入試センター試験前日準備 (休講)
			14日	土	大学入試センター試験 (休講)
			15日	日	大学入試センター試験
			23日	月	秋学期授業終了
			17日 24日～28日	火 火～土	補講・集中講義
			30日	月	春季休暇開始
			2月23日	木	修了要件充足者発表 (3月修了)
			3月9日	金	修了決定者発表 (3月修了)
			23日	金	学位記授与式・卒業式 (3月修了生)
			26日・27日	月・火	秋学期成績発表・履修関係書類配布

I 教員組織

学 長 竹 村 牧 男

◎印 研究科委員長

○印 専攻主任

文学研究科

哲学専攻

◎教授 村上勝三 文学博士
 ○教授 長島隆
 教授 河本英夫 博士(学術)
 教授 相楽勉
 教授 中里巧 博士(文学)
 教授 永井晋 博士(文学)
 教授 山口一郎 Ph.D.
 非常勤講師 内海健 博士(医学)
 非常勤講師 金沢誠 Ph.D.
 非常勤講師 カリン山口
 非常勤講師 黒田昭信 Ph.D.
 非常勤講師 土屋俊
 非常勤講師 矢内義顕
 非常勤講師 山口祐弘 Ph.D.
 非常勤講師(兼担) 松村淳子 Ph.D.

インド哲学仏教学専攻(旧仏教学専攻)

○教授 宮本久義 Ph.D.
 教授 伊吹敦
 教授 竹村牧男 博士(文学)
 教授 橋本泰元 博士(文学)
 教授 山口しのぶ 博士(文学)
 教授 渡辺章悟 博士(文学)
 非常勤講師 永ノ尾信悟 Ph.D.
 非常勤講師 大久保良峻 博士(文学)
 非常勤講師 下田正弘 博士(文学)
 非常勤講師 デレアヌ フロリン Ph.D.
 非常勤講師 松村淳子 Ph.D.

国文学専攻

○教授 山崎甲一 博士(文学)
 教授 石田仁志
 教授 河地修
 教授 菊地義裕 博士(文学)
 教授 千艘秋男
 教授 高城功夫 博士(文学)

教授 竹内清己 博士(文学)
 教授 谷地快一 博士(文学)
 教授 中山尚夫 博士(文学)
 教授 三宅和子
 教授 和田博文
 教授(兼担) 有澤晶子 博士(日本語日本文学)
 教授(兼担) 野間信幸
 非常勤講師 阿久澤忠
 非常勤講師 稲垣泰一
 非常勤講師 上村正名 博士(経済学)
 非常勤講師 榊原悟 文学博士
 非常勤講師 山田吉郎 博士(文学)

中国哲学専攻

○教授 吉田公平 文学博士
 教授 有澤晶子 博士(日本語日本文学)
 教授 小路口聡 博士(文学)
 教授 野間信幸
 教授 山田利明 博士(文学)
 教授(兼担) 相楽勉
 教授(兼担) 高橋継男
 非常勤講師 竹下悦子
 非常勤講師 藤澤太郎 博士(文学)
 非常勤講師(兼担) 山口祐弘 Ph.D.

英文学専攻

○教授 埋橋勇三
 教授 赤須薫
 教授 石和田昌利
 教授 桑原文子
 教授 齋藤九一
 教授 寺島照明
 教授 村山淳彦
 教授(兼担) 倉田雅美

史学専攻

○教授 白川部達夫 博士(文学)
 教授 大豆生田稔 博士(文学)

教授 岡本充弘
 教授 神田千里 博士(文学)
 教授 後藤明
 教授 高橋継男
 教授 高嶋純夫
 教授 堀越宏一 歴史学博士
 教授 森公章 博士(文学)
 准教授 千葉正史 博士(史学)
 非常勤講師 高木不二
 非常勤講師 土肥孝
 非常勤講師 前沢伸行

教育学専攻

○教授 山崎準二 博士(教育学)
 教授 大森正
 教授 緒方登士雄
 教授 桂直美
 教授 斎藤里美
 教授 篠崎信之
 教授 清水直治 [国内研究]
 教授 藤本典裕
 教授 宮崎英憲
 教授 矢口悦子 博士(人文科学)
 教授 米澤正雄
 非常勤講師 上田幸夫
 非常勤講師 小笠原恵 博士(教育学)
 非常勤講師 北野秋男 博士(教育)
 非常勤講師 瀧澤利行 博士(教育学・医学)
 非常勤講師 内藤和美
 非常勤講師 野々村新

英語コミュニケーション専攻

○教授 倉田雅美
 教授 宇田川晴義
 教授 鈴木雅光 [国内研究]
 教授 竹野谷みゆき Ph.D.
 教授 中鉢恵一
 教授 高橋雄範
 准教授 迦留留チャールズ Ph.D.
 非常勤講師 エリス俊子 Ph.D.
 非常勤講師 フィリップ ローレス

社会学研究科

社会学専攻

○教授 宇都宮京子 博士(人文科学)
 教授 青木辰司
 教授 井沢泰樹 博士(人間科学)
 教授 植野弘子 博士(学術)
 教授 海野敏
 教授 小俣利男 博士(地理学)
 教授 小林修一 博士(社会学)
 教授 小林正夫 [国内研究]
 教授 柴田隆行 博士(社会学)
 教授 島崎哲彦 博士(社会学)
 教授 常盤繁
 教授 中村功
 教授 中山伸樹
 教授 西山茂
 教授 西野理子 [海外研究]
 教授 原山哲 博士(社会学)
 教授 細井洋子 博士(社会学)
 教授 三上俊治
 教授 三沢伸生
 教授 山本須美子 博士(教育学)
 教授(兼担) 安藤清志 文学博士
 教授(兼担) 石井隆憲 博士(社会学)
 教授(兼担) 黒澤香 Ph.D.
 教授(兼担) 西澤晃彦
 教授(兼担) 松本誠一
 准教授 大谷奈緒子
 准教授 関谷直也
 准教授 長津一史 博士(地域研究)
 准教授 水野剛也 Ph.D.
 非常勤講師 荒川敏彦
 非常勤講師 四方由美
 非常勤講師 松村和則 教育学博士
 非常勤講師(兼担) 大津起夫

社会福祉学専攻

教授(兼担) 秋元美世 博士(社会福祉学) [国内研究]
 教授(兼担) 小林良二
 教授(兼担) 佐藤豊道 博士(社会福祉学)
 教授(兼担) 古川孝順 博士(社会福祉学)
 教授(兼担) 森田明美
 非常勤講師(兼担) 片平冽彦 保健学博士

非常勤講師(兼担) 高橋重宏 保健学博士

教授(兼担) 後藤武秀

教授(兼担) 名雪健二

教授(兼担) 武藤真朗

教授(兼担) 宮原均

教授(兼担) 森田明

准教授 多田英明

准教授 太矢一彦 博士(法学)〔国内研究〕

准教授 中村恵

客員教授(兼担) 佐藤俊一 博士(法学)

非常勤講師 岡崎哲郎

非常勤講師 周劍龍 法学博士

非常勤講師 谷原修身 博士(法学)

非常勤講師 辻村昌昭

非常勤講師 矢澤昇治

非常勤講師(兼担) 浅海伸夫

非常勤講師(兼担) 松岡誠

非常勤講師(兼担) 山下清兵衛

社会心理学専攻

- ◎教授 安藤清志 文学博士
- 教授 北村英哉 博士(社会心理学)
- 教授 稲木哲郎
- 教授 大島尚
- 教授 片山美由紀
- 教授 久保ゆかり
- 教授 黒澤香 Ph.D.
- 教授 杉山憲司
- 教授 戸梶重紀彦
- 教授 堀毛一也
- 教授(兼担) 島崎哲彦 博士(社会学)
- 教授(兼担) 鈴木哲郎
- 准教授 加藤司 博士(心理学)
- 准教授 平田謙次 博士(学術)
- 准教授(兼担) 長津一史 博士(地域研究)
- 准教授(兼担) 水野剛也 Ph.D.
- 非常勤講師 大津起夫
- 非常勤講師 坂本真士 博士(社会心理学)

公法学専攻

- 教授 高野幸大 法学博士
- 教授 加藤秀治郎 法学博士
- 教授 後藤武秀 法学博士
- 教授 齋藤洋
- 教授 名雪健二
- 教授 宮原均
- 教授 武藤真朗
- 教授 森田明
- 教授(兼担) 芦野訓和
- 教授(兼担) 今井雅子
- 教授(兼担) 遠藤喜佳
- 教授(兼担) 坂本恵三
- 教授(兼担) 橋本昇二
- 教授(兼担) 藤村知己
- 教授(兼担) 山下りえ子
- 准教授 上田真理
- 准教授 伊藤涉
- 客員教授 渡邊充
- 客員教授 佐藤俊一 博士(法学)
- 非常勤講師 浅海伸夫
- 非常勤講師 小林博志 博士(法学)
- 非常勤講師 龍澤邦彦 法律学国家博士
- 非常勤講師 松岡誠
- 非常勤講師 山下清兵衛

法学研究科

私法学専攻

- ◎教授 遠藤喜佳
- 教授 楠元純一郎
- 教授 相川修
- 教授 芦野訓和
- 教授 井上貴也
- 教授 今井雅子
- 教授 大森文彦
- 教授 柿崎環 博士(法学)
- 教授 笠原俊宏
- 教授 鎌田耕一 〔国内研究〕
- 教授 熊田裕之
- 教授 小林秀年
- 教授 坂本恵三 Dr.iur.
- 教授 櫻本正樹 〔海外研究〕
- 教授 曾我一正 Ph.D.
- 教授 橋本昇二
- 教授 藤村知己
- 教授 山下りえ子
- 教授(兼担) 加藤秀治郎 法学博士

非常勤講師(兼担) 岡崎哲郎
非常勤講師(兼担) 矢澤昇治

教授(兼担) 神田雄一 工学博士
教授(兼担) 河野大機 博士(経済学)
教授(兼担) 中村久人
教授(兼担) 和田尚久 博士(経済学)
准教授 里吉清隆 博士(経済学)

経営学研究科

経営学専攻

◎教授 中村久人
○教授 河野大機 博士(経済学)
教授 穂山幹夫
教授 旭貴朗 理学博士
教授 石井晴夫 博士(経済学)〔国内研究〕
教授 小椋康宏
教授 柿崎洋一
教授 賀来景英
教授 金子俊夫 博士(商学)
教授(兼担) 石井薫
教授(兼担) 大坪宏至
教授(兼担) 菅原計 博士(会計学)
教授(兼担) 杉山晶子
教授(兼担) 茅根聡 博士(商学)
教授(兼担) 疋田聰
准教授 董晶輝 博士(経営学)〔海外研究〕
准教授 中島裕喜 博士(経済学)
非常勤講師 加藤茂夫
非常勤講師 平賀富一
非常勤講師 松本芳男
非常勤講師(兼担) 尾畑裕 博士(商学)
非常勤講師(兼担) 森川信男

准教授 増子敦仁
講師 大瀬良伸
客員教授 越純一郎
非常勤講師 太田三郎 博士(経済学)
非常勤講師 大平浩二
非常勤講師 尾畑裕 博士(商学)
非常勤講師 坂口幸雄
非常勤講師 佐久間信夫
非常勤講師 竹内進
非常勤講師 中島朋子 博士(経営学)
非常勤講師 森川信男
非常勤講師 吉村孝司 博士(経営学)
非常勤講師(兼担) 谷原修身 博士(法学)

(中小企業診断士登録養成コース)

教授 今泉淳 博士(工学)
教授 菊池宏之 博士(学術)
教授 幸田浩文
教授 小椋正稔 博士(経済学)
教授 中村義人
特任教授 木下潔
教授(兼担) 柿崎洋一
教授(兼担) 中村久人
教授(兼担) 安田武彦
准教授 関勝寿 博士(農学)
准教授 寺畑正英
准教授 松村良平 博士(理学)〔国内研究〕
准教授(兼担) 野中誠
非常勤講師 秋島一雄
非常勤講師 新井美砂
非常勤講師 井上真伯
非常勤講師 岩岡博徳
非常勤講師 臼井秀彰
非常勤講師 大仲均
非常勤講師 大野敬浩
非常勤講師 小國義之
非常勤講師 鴨志田栄子
非常勤講師 岸嘉男

ビジネス・会計ファイナンス専攻

○教授 幸田浩文
教授 石井薫
教授 今泉淳 博士(工学)
教授 大坪宏至 博士(学術)
教授 菊池宏之 博士(経済学)
教授 小椋正稔 博士(会計学)
教授 菅原計 博士(会計学)
教授 杉山晶子
教授 茅根聡 博士(商学)
教授 中村義人
教授 宮村健一郎
教授(兼担) 旭貴朗 理学博士
教授(兼担) 小椋康宏
教授(兼担) 柿崎洋一

非常勤講師 久野 威
 非常勤講師 久場 清弘
 非常勤講師 熊谷 学
 非常勤講師 後閑 和子
 非常勤講師 小島 慎一
 非常勤講師 佐藤 剛 博士（経営学）
 非常勤講師 柴田 昌行
 非常勤講師 田島 悟
 非常勤講師 鳥山 秀弘
 非常勤講師 福島 正人
 非常勤講師 藤田 隆久
 非常勤講師 古澤 智
 非常勤講師 堀安 吉城
 非常勤講師 柳沢 均
 非常勤講師 山根 義信
 非常勤講師 渡辺 英男
 非常勤講師(兼担) 加藤 茂夫
 非常勤講師(兼担) 關 智一 博士（経営学）

マーケティング専攻

○教授 小川 純生
 教授 住谷 宏
 教授 久保田 進彦
 教授 塚田 朋子
 教授 長島 広太
 教授 疋田 聰
 教授(兼担) 旭 貴朗 理学博士
 教授(兼担) 小椋 康宏
 教授(兼担) 河野 大機 博士（経済学）
 教授(兼担) 中村 久人
 准教授 川崎 健太郎 博士（経済学）
 准教授 野中 誠
 准教授 峰尾 美也子 博士（商学）
 講師 李 炅泰 博士（経済学）
 非常勤講師 關 智一 博士（経営学）

経済学研究科

経済学専攻

○教授 吉田 明子
 教授 穂本 洋哉 経済学博士〔国内研究〕
 教授 浅野 清 博士（経済学）
 教授 今東 博文
 教授 今村 肇

教授 大野 裕之 Ph.D.
 教授 小川 芳樹 理学博士
 教授 郝 仁平 〔海外研究：前期〕
 教授 城川 俊一 博士（経済学）
 教授 児玉 俊介
 教授 斎藤 孝
 教授 佐々木 啓介 博士（経済学）
 教授 鈴木 孝弘 工学博士
 教授 竹澤 康子
 教授 藤井 信幸 博士（経済学）
 教授 益田 安良 博士（経済学）
 教授 道重 一郎 経済学博士〔海外研究〕
 教授 棟近 みどり
 教授 門間 麻紀 Ph.D.
 教授 安田 武彦
 教授 山谷 修作 経済学博士
 教授 渡辺 美智子 理学博士
 教授(兼担) 中北 徹
 教授(兼担) 八巻 節夫 経済学博士
 教授(兼担) 山田 肇 工学博士
 准教授 川瀬 晃弘 博士（経済学）〔海外研究〕
 客員教授 神山 宣彦 理学博士
 客員教授 柳 裕治 博士（商学）
 非常勤講師 信澤 由之 博士（経済学）

公民連携専攻

◎教授 山田 肇 工学博士
 ○教授 根本 祐二
 教授 加賀見 一彰 博士（経済学）〔海外研究：春学期〕
 教授 ティモシ・ジェームス・ニューフィールズ
 教授 中北 徹
 教授 松原 聡 博士（経済学）
 教授 八巻 節夫 経済学博士
 特任教授 サム 田 潤
 教授(兼担) 小川 芳樹 理学博士
 准教授 宮崎 智視 博士（経済学）
 客員教授 金谷 隆正
 客員教授 佐藤 真良
 客員教授 清水 義次
 客員教授 関 幸子
 客員教授 南 学
 客員教授 美原 融
 客員教授 林 原 行雄

客員教授 渡辺 誠一 工学博士
 非常勤講師 片桐 徹也
 非常勤講師 齋藤 香里 博士(経済学)

教授 蒲生 美香 博士(工学)
 教授 川瀬 義矩 工学博士
 教授 田島 正弘 博士(工学)
 教授 福島 康正 博士(理学)
 教授 宮崎 芳雄 理学博士
 教授 吉田 泰彦 工学博士
 教授(兼担) 石井 茂 工学博士
 教授(兼担) 宇佐美 論 博士(工学)
 特任教授(兼担) D. Sakthi Kumar Ph.D.
 特任教授(兼担) 和田 恭雄 工学博士
 准教授 安藤 直子 Ph.D.
 客員教授 長田 裕之 農学博士
 客員教授 加藤 誠志 工学博士
 客員教授 亀倉 正博 農学博士
 客員教授 工藤 俊章 農学博士
 客員教授 萩原 時男 工学博士
 客員教授 前田 瑞夫 工学博士
 非常勤講師 新井 充 工学博士
 非常勤講師 小日向 武 博士(薬学)
 非常勤講師 外山 滋 博士(工学)

工学研究科

機能システム専攻

○教授 望月 修 工学博士
 教授 井内 徹 理学博士
 教授 石川 圭介 工学博士
 教授 江澤 良孝 工学博士
 教授 大久保 俊文 博士(工学)
 教授 小河 繁彦 博士(人間環境学)
 教授 神田 雄一 工学博士
 教授 小室 修二 工学博士
 教授 小山 信也 博士(理学)
 教授 西郷 宗玄 工学博士
 教授 田中 尚樹 博士(工学)
 教授 田村 善昭 博士(工学)
 教授 椿 光太郎 博士(工学)
 教授 寺田 信幸 博士(医学)
 教授 原 秀介 工学博士
 教授 堀内 城司 博士(医学)
 教授 松元 明弘 工学博士
 特任教授 矢川 元基 工学博士
 教授 山内 康司 博士(工学)
 教授 吉田 善一 工学博士
 教授 吉本 智巳 博士(工学)
 教授 和田 昇 Ph.D.
 教授(兼担) 花尻 達郎 博士(工学)
 教授(兼担) 前川 透 工学博士
 准教授 柴田 絢也 博士(工学)
 准教授 本橋 健次 博士(工学)
 准教授 物部 秀二 博士(工学)
 准教授 山川 聡子 博士(工学)
 准教授 吉野 隆 博士(工学)
 准教授(兼担) 森本 久雄 博士(工学)
 客員教授 青柳 克信 工学博士
 客員教授 石橋 幸治 工学博士

環境・デザイン専攻

◎教授 秋山 哲一 工学博士
 ○教授 長澤 悟 工学博士
 教授 石田 哲朗 工学博士
 教授 尾崎 晴男 博士(工学)
 教授 加賀 宗彦 博士(工学)
 教授 工藤 和美
 教授 鈴木 崇伸 博士(工学)
 教授 須長 誠 博士(工学)
 教授 高草木 明 博士(工学)
 教授 田中 修三 工学博士
 教授 中川 良隆 博士(工学)
 教授 福井 吉孝 工学博士
 教授 福手 勤 工学博士
 特任教授 藤田 壮 博士(工学)
 教授 松野 浩一 博士(工学)
 准教授 浦江 真人 工学博士
 准教授 香取 慶一 博士(工学)
 准教授 小瀬 博之 博士(工学)
 准教授 篠崎 正彦 博士(工学)
 准教授 野澤 千絵 博士(工学)
 准教授 松下 吉男 博士(工学)

バイオ・応用化学専攻

○教授 泉 克幸 工学博士
 教授 上田 貴洋 博士(理学)
 教授 勝亦 徹 理学博士

准教授 村野昭人 博士(工学)
 准教授(兼担) 吉野隆 博士(工学)
 客員教授 田中總太郎 工学博士
 客員教授 近角真一
 非常勤講師 江森弘祥 博士(工学)
 非常勤講師 近藤道男
 非常勤講師 山本想太郎

情報システム専攻

○教授 木本伊彦 博士(工学)
 教授 安達由洋 工学博士
 教授 石曾根孝之 工学博士
 教授 伊藤繁夫 工学博士
 教授 植田佳典 工学博士
 教授 上原稔 博士(工学)
 教授 加藤正平 工学博士
 教授 堺和人 博士(工学)
 教授 塩谷隆二 博士(工学)
 教授 篠永英之 博士(工学)
 教授 杉本富利 博士(工学)
 教授 土田賢省 博士(理学)
 教授 堀口文男 工学博士
 教授(兼担) 鳥谷部達 工学博士
 特任教授(兼担) 和田恭雄 工学博士
 准教授 加藤千恵子 博士(工学)
 准教授 佐野勇司 博士(工学)
 准教授 西澤振一郎 博士(工学)Dr. Ing.
 准教授 藤本貴之 博士(学術)
 准教授 三原孝志 博士(情報科学)
 准教授 村上真 博士(情報科学)
 客員教授 尾崎信之 工学博士
 客員教授 森秀樹 工学博士
 非常勤講師 柴田義孝 Ph.D.
 非常勤講師 滑川光裕 博士(工学)
 非常勤講師 西野哲郎 理学博士
 非常勤講師 樋山淳雄 工学博士
 非常勤講師 福田健介 博士(工学)

国際地域学研究所

国際地域学専攻

○教授 北脇秀敏 工学博士
 ○教授 太田勝敏 Ph.D.
 教授 荒巻俊也 博士(工学)

教授 安相景
 教授 池田誠
 教授 稲生信男 博士(学術)
 教授 金子彰
 教授 久留島守広
 教授 坂元浩一 博士(経済学)
 教授 高橋一男
 教授 張長平 理学博士
 教授 中挟知延子 博士(学術)
 教授 藤井敏信 博士(工学)
 教授 マリアロサビケバレス 社会学博士
 教授 吉永健治 博士(農学)
 准教授 杉田映理 Ph.D.

国際観光学専攻

○教授 東海林克彦 博士(農学)
 教授 飯嶋好彦 博士(経営学)
 教授 薄木三生
 教授 藤田晴啓 Ph.D.
 教授 古屋秀樹 博士(工学)
 教授 堀雅通 博士(商学)
 教授 松園俊志
 教授 梁春香 経済学博士
 教授 和田尚久 博士(経済学)
 准教授 島川崇

生命科学研究科

生命科学専攻

○教授 上條賢一 博士(理学)
 ○教授 佐々木和生 博士(理学)
 教授 一石昭彦 博士(学術)
 教授 伊藤政博 博士(工学)
 教授 大熊廣一 工学博士
 教授 岡崎涉 工学博士
 教授 金子律子 医学博士
 教授 柏田祥策 博士(農学)
 教授 河合良夫 農学博士
 教授 川口英夫 博士(工学)
 教授 清水範夫 農学博士
 教授 下村講一郎 薬学博士
 教授 角野立夫 博士(農学)
 教授 高崎茂 工学博士
 教授 竹井弘之 Ph.D.(応用物理工学)

教授 野 島 直 人 博士 (農学)
 教授 福 森 文 康 農学博士
 教授 藤 村 真 博士 (学術)
 教授 山 本 浩 文 薬学博士
 教授 矢 野 友 啓 薬学博士
 教授 吉 江 由美子 博士 (水産学)
 教授 和 田 直 久 理学博士
 教授(兼担) 井 上 明 博士 (農学)
 教授(兼担) 道 久 則 之 博士 (工学)
 准教授 太 田 昌 子 博士 (学術)
 准教授 清 水 文 一 博士 (農学)
 准教授 高 品 知 典 博士 (工学)
 准教授 玉 岡 迅 農学博士
 准教授 長 坂 征 治 博士 (農学)
 准教授 根 建 拓 博士 (農学)
 准教授 長谷川 輝 明 博士 (工学)
 准教授 東 端 啓 貴 博士 (工学)
 准教授 廣 津 直 樹 博士 (農学)
 准教授 三 浦 健 博士 (工学)
 准教授 宮 西 伸 光 博士 (水産学)
 非常勤講師 吉 田 和 弘 医学博士

福祉社会システム専攻

○教授 高 山 直 樹
 教授 井 上 治 代 博士 (社会学)
 教授 紀 葉 子 社会学博士
 教授 志 村 健 一 Dr. of Education
 教授 須 田 木綿子 博士 (保健学)
 教授 西 澤 晃 彦
 教授 藤 林 慶 子
 教授 松 本 誠 一
 教授 渡 辺 満 久 理学博士
 教授(兼担) 小 林 良 二
 教授(兼担) 佐 藤 豊 道 博士 (社会福祉学)
 教授(兼担) 白 石 弘 巳 医学博士
 教授(兼担) 原 山 哲 博士 (社会学)
 准教授 村 尾 祐美子 博士 (社会科学)
 准教授 山 本 美 香
 非常勤講師 浅 野 晃 司 博士 (医学)
 非常勤講師 大 竹 延 幸
 非常勤講師 片 平 洌 彦 保健学博士
 非常勤講師 北 島 英 治 Ph.D.
 非常勤講師 清 澤 文彌太 工学博士
 非常勤講師 小 山 秀 夫 博士 (医療福祉学)
 非常勤講師 清 水 浩 一
 非常勤講師 高 橋 龍太郎 医学博士
 非常勤講師 谷 口 明 子 博士 (教育学)
 非常勤講師 皆 川 満寿美
 非常勤講師 森 田 明 彦 博士 (学術)
 非常勤講師 山 崎 喜比古 博士 (保健学)
 非常勤講師 若 林 浩 司

福祉社会デザイン研究科

社会福祉学専攻

◎教授 小 林 良 二
 ○教授 佐 藤 豊 道 博士 (社会福祉学)
 教授 秋 元 美 世 博士 (社会福祉学) [国内研究]
 教授 金 子 光 一 博士 (社会福祉学)
 教授 野 村 豊 子
 教授 古 川 孝 順 博士 (社会福祉学)
 教授(兼担) 須 田 木綿子 博士 (保健学)
 教授(兼担) 藤 林 慶 子
 准教授 加 山 弾
 非常勤講師 奥 山 正 司
 非常勤講師 和 秀 俊 博士 (社会福祉学)
 非常勤講師 三本松 政 之 博士 (社会福祉学)
 非常勤講師 高 橋 重 宏 保健学博士
 非常勤講師 深 谷 太 郎
 非常勤講師 布 川 日佐史
 非常勤講師 村 社 卓 博士 (社会福祉学)
 非常勤講師(兼担) 片 平 洌 彦 保健学博士
 非常勤講師(兼担) 北 島 英 治 Ph.D.
 非常勤講師(兼担) 山 崎 喜比古 博士 (保健学)

ヒューマンデザイン専攻

○教授 白 石 弘 巳 医学博士
 教授 石 井 隆 憲 博士 (社会学)
 教授 大 迫 正 文 博士 (歯学)
 教授 角 藤 智津子
 教授 菊 池 義 昭 [国内研究：春学期]
 教授 神 野 宏 司 博士 (医学)
 教授 小 林 英 義
 教授 齊 藤 恭 平
 教授 坂 口 正 治
 教授 嶋 崎 博 嗣
 教授 清 水 玲 子
 教授 杉 田 記代子 博士 (医学)

教授 鈴木 佐喜子
 教授 鈴木 哲郎
 教授 中原 美恵
 教授 松尾 順一 博士(体育科学)
 教授 森田 明美
 教授 渡辺 裕美 博士(社会福祉学)
 教授(兼担) 井上 治代 博士(社会学)
 教授(兼担) 高山 直樹
 教授(兼担) 古川 孝順 博士(社会福祉学)
 准教授 木内 明
 准教授 古川 覚 博士(医学)
 准教授 的場 智子 博士(文学)
 准教授 吉浦 輪 博士(社会福祉学)
 非常勤講師 荒牧 重人
 非常勤講師 山下 靖雄 歯学博士

人間環境デザイン専攻

○教授 櫻井 義夫
 教授 内田 祥士 博士(工学)
 教授 奥村 和正
 教授 川内 美彦 博士(工学)
 教授 繁成 剛 博士(医療情報学)
 教授 高橋 儀平 博士(工学)
 教授 水村 容子 博士(学術)
 教授 米田 郁夫 博士(工学)
 准教授 池田 千登勢
 准教授 柏樹 良
 准教授 神吉 優美 博士(工学)
 准教授 北 真吾
 准教授 高橋 良至 博士(工学)
 准教授 名取 発 博士(工学)
 非常勤講師 岡田 哲
 非常勤講師 小野寺 一成 博士(国際地域学)
 非常勤講師 齋藤 宏昭 博士(工学)
 非常勤講師 須藤 智 博士(心理学)

学際・融合科学研究科

バイオ・ナノサイエンス融合専攻

◎教授 花尻 達郎 博士(工学)
 ○教授 道久 則之 博士(工学)
 教授 石井 茂 工学博士
 教授 井上 明 博士(農学)
 教授 宇佐美 論 博士(工学)
 教授 鳥谷部 達 工学博士
 教授 前川 透 工学博士
 特任教授 和田 恭雄 工学博士
 特任教授 D.Sakthi Kumar Ph.D.
 教授(兼担) 伊藤 政博 博士(工学)
 教授(兼担) 大久保 俊文 博士(工学)
 教授(兼担) 大熊 廣一 工学博士
 教授(兼担) 金子 律子 医学博士
 教授(兼担) 清水 範夫 農学博士
 教授(兼担) 吉田 泰彦 工学博士
 教授(兼担) 吉田 善一 工学博士
 准教授 森本 久雄 博士(工学)
 准教授(兼担) 長谷川 輝明 博士(工学)
 准教授(兼担) 東端 啓貴 博士(工学)
 准教授(兼担) 吉本 智巳 博士(工学)
 客員教授 Harold Kroto Ph.D.
 客員教授 John Walker Ph.D.
 客員教授 Daniel Morse Ph.D.
 客員教授 Raymond Whitby Ph.D.
 客員教授 Règeine Perzynski Ph.D.
 客員教授 Nicole Grobert Ph.D.
 客員教授 Leonid Kalachev Ph.D.
 客員教授 小林 徹 農学博士
 客員教授 出口 茂 博士(工学)
 客員教授 板東 義雄 理学博士
 非常勤講師 福田 尚宏 博士(工学)

Ⅱ 大学院における教育活動

1. 教育方法・修了要件

(1) 大学院における教育方法

大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）によって行う。

(2) 修了要件について

①博士前期課程・修士課程

- 1) 本課程に2年以上在学し、**30単位以上**を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ「修士学位論文」または「特定の課題についての研究の成果」（以下「特定課題研究論文」という）の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

■「特定課題研究論文」による場合の修了要件

- 社会学研究科社会学専攻、法学研究科私法学専攻・公法学専攻、経営学研究科ビジネス・会計ファイナンス専攻、経済学研究科公民連携専攻、生命科学研究科、福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン専攻・人間環境デザイン専攻において、特定課題研究論文による場合の修了に必要な単位数は、**30単位以上**とする。
- 国際地域学研究科においては、社会人学生に対し適用し特定課題研究論文による場合の修了に必要な単位数は、**32単位以上**とする。
- 福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻においては、特定課題研究論文による場合の修了に必要な単位数は、**36単位以上**とする。

- 2) 各研究科・専攻により修了に必要な授業科目等が異なるので、各専攻の課程表にあわせて記載された「履修方法」をよく確認すること。

②博士後期課程

本課程に5年（博士前期課程・修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士学位論文の審査および最終試験に合格した者に対して博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年（博士前期課程・修士課程を修了した者にあっては、当該課程における在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

2. 授業時間・窓口時間・休講

(1) 授業時間・窓口時間（授業期間中）

研究科によって担当窓口が異なるので注意してください。

窓口時間は、時期によって変更することがあるので、掲示やホームページなどで確認してください。

◎白山キャンパス【担当窓口：大学院教務課】		
文学・社会学・法学・経営学・経済学研究科 福祉社会デザイン研究科 (社会福祉学専攻・福祉社会システム専攻)		
時限	授業時間	窓口時間
1	9:00~10:30	(月~金) 9:30~13:00
2	10:40~12:10	
3	13:00~14:30	
4	14:40~16:10	14:00~20:30
5	16:20~17:50	(土) 9:30~16:45
6	18:10~19:40	
7	19:50~21:20	

◎白山第2キャンパス【担当窓口：国際地域オフィス】		
国際地域学研究科		
時限	授業時間	窓口時間
1	9:00~10:30	(月~金) 9:30~13:00
2	10:40~12:10	
3	13:00~14:30	
4	14:40~16:10	14:00~16:45
5	16:20~17:50	(土) 9:30~12:45
6	18:10~19:40	
7	19:50~21:20	

◎朝霞キャンパス【担当窓口：朝霞事務課】		
福祉社会デザイン研究科 (ヒューマンデザイン専攻・人間環境デザイン専攻)		
時限	授業時間	窓口時間
1	9:00~10:30	(月~金) 9:30~13:00
2	10:40~12:10	
3	13:00~14:30	
4	14:40~16:10	14:00~19:00
5	16:20~17:50	(土) 9:30~12:45
6	18:00~19:30	
7	19:40~21:10	

◎大手町サテライト【担当窓口：大学院教務課】		
経済学研究科公民連携専攻（授業期間のみ）		
時限	授業時間	窓口時間
6	18:30~20:00	(月~金) 16:00~21:30
7	20:10~21:40	

※土曜日は白山キャンパスで開講

◎川越キャンパス【担当窓口：川越教学課】		
工学研究科、学際・融合科学研究科		
時限	授業時間	窓口時間
1	9:00~10:30	(月~金) 9:30~13:00
2	10:40~12:10	
3	13:10~14:40	
4	14:50~16:20	14:00~16:45
5	16:30~18:00	(土) 9:30~12:45

◎板倉キャンパス【担当窓口：板倉教学課】		
生命科学研究科		
時限	授業時間	窓口時間
1	9:30~11:00	(月~金) 9:20~13:30
2	11:10~12:40	
3	13:20~14:50	
4	15:00~16:30	14:00~16:50
5	16:40~18:10	(土) 9:20~12:50

(2) 休講について

①授業等の休講

授業の休講については、担当教員の連絡により、開講キャンパスの休講掲示板に掲示します。

また、「東洋大学 Web 情報システム」(P.54参照)でも休講情報を照会することができます。

なお、休講掲示板に掲示されていないにもかかわらず、授業開始後30分を経過しても担当教員が不在のときは、原則として休講となります。

[休講掲示板的設置場所]

開講キャンパス	掲示場所	
白山キャンパス	5号館2階	大学院教務課前
白山第2キャンパス	B棟1階	入口掲示板
朝霞キャンパス	講義棟1階	掲示板
大手町サテライト	サテライト内	掲示板
川越キャンパス	4号館1階	教学課横大学院関係掲示板
板倉キャンパス	2号館1階	中央掲示板

②台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合等の授業の取扱い

1. 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一時的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学のホームページ・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。

ホームページはアクセスが集中し、繋がりにくい場合がありますので、Web 情報システムも利用してください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が予想される場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

2. 大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、本学のホームページ・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとする。

3. 履修・成績評価・進級

(1) 履修について

①博士前期課程・修士課程

- 1) 各自の研究分野に従い、主指導教授の研究指導および副指導教授の指導を受けるとともに、授業科目等について30単位以上（国際地域学専攻特定課題研究選択者は32単位以上、福祉社会システム専攻特定課題研究選択者は36単位以上）修得しなければならない。
- 2) 履修する科目の選択・決定に当たっては、必ず指導教授の指導を受けること。なお、新入生は、研究指導受講希望の教員と研究計画等について話し合いのうえ、指導教授を決定すること。
- 3) 所属する研究科・専攻により履修方法が異なるので、各専攻の課程表にあわせて記載された「履修方法」をよく確認すること。
- 4) 指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本学の他の研究科・専攻の科目を10単位を上限として履修することができる。また、交流協定校（「7. 委託聴講生制度（特別科目履修生）」〈P.46〉、「8. 首都大学院コンソーシアム協定聴講生制度」〈P.47〉参照）の授業科目等を履修することができる。
- 5) 他の研究科・専攻の授業科目等を履修する場合は、窓口で詳細を確認した後、当該科目の担当教員の承認を受けること。

②博士後期課程

- 1) 各自の研究分野に従い、主指導教授の研究指導および副指導教授の指導を受けなければならない。
- 2) 授業科目等は、指導教授の指示により履修することができる。
- 3) 所属する研究科・専攻により履修方法が異なるので、各専攻の課程表にあわせて記載された「履修方法」をよく確認すること。
- 4) 指導教授が研究上必要と認めた場合は、他の研究科・専攻・課程または交流協定校（「7. 委託聴講生制度

(特別科目履修生)」(P.46)、「8. 首都大学院コンソーシアム協定聴講生制度」(P.47) 参照) の授業科目等を履修することができる。

- 5) 他の研究科・専攻・課程の授業科目等を履修する場合は、手続方法等について窓口で詳細を確認した後、指導教授および当該科目の担当教員の承認を受けること。

(2) 履修登録

- ①履修する科目が決定した後、下記の日程で「東洋大学 Web 情報システム」で各自履修登録を行うこと。

所属キャンパス		履修登録期間	担当窓口
白山キャンパス	通年制専攻	2011年4月8日(金)～15日(金) 午前9時〈予定〉	教 務 部 大 学 院 教 務 課
	セメスタ制専攻※	春学期 2011年4月8日(金)～15日(金) 午前9時〈予定〉	
		秋学期 2011年9月24日(土)～10月3日(月) 午前9時〈予定〉	
白山第2キャンパス	春学期 2011年4月8日(金)～15日(金)〈予定〉 秋学期 2011年9月下旬(9月中旬頃掲示予定)	国際地域オフィス	
川越キャンパス	春学期 2011年4月8日(金)～14日(木)〈予定〉 秋学期 2011年9月24日(土)～30日(金)〈予定〉	川越事務部教学課	
板倉キャンパス	春学期 2011年4月8日(金)～15日(金) 秋学期 2011年9月下旬(9月中旬頃掲示予定)	板倉事務部教学課	
朝霞キャンパス	春学期 2011年4月8日(金)～15日(金) 秋学期 2011年9月24日(土)～30日(金)〈予定〉	朝霞事務部 朝霞事務課	

※ 公民連携専攻については大手町サテライトを含む。

- ②履修登録期間終了後の変更や登録の追加は一切認めない。上記期間内に余裕をもって登録すること。
- ③教育職員免許状取得のために学部で開講されている教職関係科目を履修する場合は、通年開講科目は年間5科目まで、半期開講科目は年間10科目まで履修することが可能である。個々により条件が異なるので、履修する場合は各担当窓口申し出ること。(「11. 教育職員免許状」(4) (P.48) を参照)
- ④他の研究科・専攻・課程の授業科目等を履修する場合は所定の届出用紙があるので、各担当窓口申し出のうえ、指導教授および当該科目の担当教員の承認を受けること。

(3) 成績評価・成績発表

- ①履修登録した授業科目等について、試験その他の方法により成績評価がなされ、合格者には所定の単位が与えられる。
- ②成績の評価は下記のとおりである。

授業での発言、課題への対応状況、日常の授業の取り組みと成果、授業への出席状況等を考慮し、総合的に評価する。

成績評価	点数	合・否	評価の視点
S	100～90	合格	科目の目標に照らし特に優れた成績を修めている。
A	89～80	合格	科目の目標に照らし優れた成績を修めている。
B	79～70	合格	科目の目標を理解した成績を修めている。
C	69～60	合格	科目の目標に対し最低限度を満たしている。
D	59～0	不合格	さらに努力・改善等が必要である。

※上記の他、出席不良・試験不受験・レポート未提出等により成績評価が不可能な場合は、「/」(評価対象外〈不合格〉)となる。

③成績発表は下記の日程で成績表の配付をもって行うので、次年度・次学期の履修登録等の参考にすること。

所属キャンパス		成績表配付日程	配付場所
白山キャンパス	通年制専攻	4月8日より〈予定〉	後日掲示にて指示
	セメスタ制専攻※	春学期 4月8日より〈予定〉 秋学期 9月24日より	
白山第2キャンパス	春学期 9月24日より 秋学期 3月下旬より		
川越キャンパス	春学期 9月1日より〈予定〉 秋学期 3月1日より〈予定〉		
板倉キャンパス	春学期 9月24・26日・27日 秋学期 3月26・27日		
朝霞キャンパス	春学期 4月4日より〈予定〉 秋学期 9月24日より		

※ 公民連携専攻については大手町サテライトを含む。

(4) 進級手続等

- ①在学学生は毎年度学年の初めに、指定された場所で進級手続を行う必要がある。手続日程等の詳細は、適宜掲示する。
 - ②次年度に使用する学生証裏面シールの配付は、進級手続時に行う。
 - ③次年度に使用する「大学院要覧」「時間割」等は、4月に配付する。
 - ④博士前期課程・修士課程2年生、博士後期課程3年生が「在学期間の延長（原級）」をする場合は、別途手続が必要となるので、6月上旬（セメスタ制専攻のみ）または1月上旬までに、担当窓口申し出ること。（P.45参照）
- ※原則として2年連続での休学は認められない。必ず担当窓口で相談すること。

(5) 既修得単位の認定（対象：博士前期課程・修士課程新入生）

本学大学院学則第10条の2に基づき、研究科委員会が教育上有益と認めるときは、本学大学院入学前に本学または他大学の大学院において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、入学後の履修単位として、10単位を超えない範囲で認定し、修了に必要な単位数に算入することができる。

単位認定を希望する者は、主指導教授と相談のうえ、下記のとおり提出書類を担当窓口へ提出すること。

[提出書類]

①単位認定申請書

* 申請書用紙は担当窓口にて配布

②成績証明書

③単位修得年度のシラバスの写し

* 申請する科目が次に該当する場合のみ提出

- ・ 本学大学院で修得した科目であっても、現在開講されていない科目
- ・ 他大学大学院で修得した科目

[提出期間]

入学した学期の履修登録期間内

※認定を申請する年度・学期に、認定を受ける科目と同一名称の科目を履修することはできない。よって、履修登録の際は、認定されなくても修了要件を満たすように登録を行うこと。

4. 学位請求論文

●●修士学位論文または特定課題研究論文●●

提出にあたり、指導教授の印鑑もれ、書類不備、提出の遅れなどは、如何なる理由においても一切受け付けない。提出には細心の注意を払うこと。

■特定課題研究論文

研究科・専攻の目的に応じて、修士学位論文と並んで特定課題研究論文の審査も可能としている専攻は、下記のとおりである。

- ・社会学研究科「社会学専攻」(P.94参照)
- ・法学研究科「私法学専攻・公法学専攻」(ただし、公務員コース所属学生のみ)(P.113参照)
- ・経営学研究科「ビジネス・会計ファイナンス専攻」(P.134参照)
- ・経済学研究科「公民連携専攻」(P.144参照)
- ・国際地域学研究科「国際地域学専攻・国際観光学専攻」(詳細は担当窓口まで)
- ・生命科学研究科「生命科学専攻」(詳細は担当窓口まで)
- ・福祉社会デザイン研究科「福祉社会システム専攻」(P.179参照)
- ・福祉社会デザイン研究科「ヒューマンデザイン専攻」
- ・福祉社会デザイン研究科「人間環境デザイン専攻」

(1) 指導教授の決定・論文題目届等の提出

- ①論文の作成に当たっては、指導教授の研究指導を受けること。
- ②指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。副指導教授については、主指導教授の指示を受け、原則として各専攻の研究指導担当教員の中から決定すること。
- ③指導教授は、特別の理由がない限り変更できない。
- ④指導教授および修士学位論文の題目が決定したら、「指導教授および修士学位論文・特定課題研究論文題目届」に指導教授の署名・捺印を受けて、担当窓口へ提出すること。この届は、毎年度提出しなければならない。今年度の提出日程は、下記のとおりである。

所属キャンパス		用紙配布期間	提出締切日	提出場所(担当窓口)
白山キャンパス	通年制専攻	4月上旬	4月23日(土)	教務部 大学院教務課
	セメスタ制専攻	春学期 4月上旬 秋学期※ 9月下旬	春学期 4月23日(土) 秋学期※ 10月8日(土)	
白山第2キャンパス		4月入学生 3月下旬 秋入学生 9月下旬	4月入学生 5月9日(月) 秋入学生 10月28日(金)	国際地域オフィス
朝霞キャンパス		春学期 4月上旬 秋学期復学者 9月下旬	春学期 4月23日(土) 秋学期復学者 10月8日(土)	朝霞事務部 朝霞事務課
川越キャンパス		4月入学生 4月上旬 秋入学生 10月上旬	4月入学生 5月6日(金) 秋入学生 11月4日(金)	川越事務部 川越事務課
板倉キャンパス		4月入学生 3月24・25日 秋入学生 9月24・26・27日	4月入学生 5月6日(金) 秋入学生 11月2日(水)	板倉事務部 板倉事務課

★上記期間内に余裕をもって提出すること。〈提出締切日厳守〉

(2) 論文報告会

専攻によっては論文報告会を行なう為、各自主指導教授及び専攻主任に確認すること。

(3) 修士学位論文または特定課題研究論文の提出日時

修士学位論文または特定課題研究論文を提出する際は、「審査願」に指導教授の署名・捺印を受けて、論文要旨等とともに提出すること。今年度の提出日程は、下記のとおりである。記載されている日時以外は一切受け付けられないので注意すること。なお、修士学位論文または特定課題研究論文を提出しない場合、次年度・次セメスタに向けて「在学期間の延長」「退学」「休学」のいずれかの手続が必要となる。該当者は6月上旬（セメスタ制専攻のみ）または1月上旬までに担当窓口へ申し出ること。

特に、年末年始は教員が大学に不在の場合が多いため、余裕をもって指導教授の署名・捺印を受けること。

所属キャンパス	提出日時		提出場所（担当窓口）
白山キャンパス （公民連携専攻除く）	9月 修了	2011年7月14日（木）～7月16日（土） 9：30～13：00 14：00～19：00 ※ただし、土曜日の受付は9：30～12：30	教務部大学院教務課 （白山キャンパス）
	3月 修了	2012年1月7日（土）・1月10日（火）・11日（水） 9：30～13：00 14：00～19：00 ※ただし、土曜日の受付は9：30～12：30	
白山キャンパス （公民連携専攻）	9月 修了	2011年7月14日（木）・15日（金） 18：00～20：00	大手町サテライト
		2011年7月16日（土） 9：30～12：30	教務部大学院教務課 （白山キャンパス）
	3月 修了	2012年1月12日（木）・13日（金） 18：00～20：00	大手町サテライト
		2012年1月14日（土） 9：30～12：30	教務部大学院教務課 （白山キャンパス）
朝霞キャンパス	9月 修了	2011年7月14日（木）～7月16日（土） 9：30～13：00 14：00～19：00 ※ただし、土曜日の受付は9：30～12：45	朝霞事務部朝霞事務課
	3月 修了	2012年1月7日（土）・1月10日（火）・11日（水） 9：30～13：00 14：00～19：00 ※ただし、土曜日の受付は9：30～12：45	
白山第2キャンパス	9月 修了	2011年7月11日（月） 9：30～12：00	国際地域オフィス
	3月 修了	2012年1月7日（土） 9：30～12：00	
川越キャンパス	9月 修了	2011年6月29日（水）・30日（木） 9：30～13：00 14：00～16：45	川越事務部教学課
	3月 修了	2012年1月27日（金）・30日（月） 9：30～13：00 14：00～16：45	
板倉キャンパス	9月 修了	2011年7月15日（金） 14：30～16：00	板倉事務部教学課
	3月 修了	2012年1月11日（水） 14：30～16：30	後日掲示

※上記期間内に余裕をもって提出すること。〈提出日時厳守〉

(4) 提出物

- ①修士学位論文・特定課題研究論文提出時に提出するものは、下記のとおりである。
- 1) 修士学位論文（部数等については、後述の「(4)修士学位論文・特定課題研究論文作成時の注意」を参照のこと。）
 - 2) 修士学位論文審査願（所定フォームあり）
 - 3) 修士学位論文審査料5,000円
 - 4) 修士学位論文要旨（部数等については、後述の「(4)修士学位論文・特定課題研究論文作成時の注意」を参照のこと。）
 - 5) 修士学位論文審査報告書（所定フォームあり）
 - 6) 修士学位論文要約（経営学研究科のみ）
 - 7) その他（「修士学位論文提出票」等（所定フォームあり）詳細は後日下記②により指示する。）
- ②上記①の論文提出に必要な書類は、5月上旬（9月修了者用）および11月上旬（3月修了者用）より配布する。

(5) 修士学位論文・特定課題研究論文作成時の注意

①論文の提出部数は、原則として下記のとおりである。

研究科・専攻	論文提出部数	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・文学研究科教育学専攻 ・福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻※ ・副査が2名の学生 ・国際地域学研究科 ・生命科学研究科（副査が1名の場合） 	正 本 1部 副 本 2部	手書き作成の場合、正本には原本の原稿を綴じることとするが、副本にはコピーでも可とする。
<ul style="list-style-type: none"> ・経済学研究科公民連携専攻 	正 本 1部	※福祉社会システム専攻の副本について、2部のうち1部はコピーを提出しても良い。（表紙もコピーで良い。）
<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外の学生 	正 本 1部 副 本 1部	
<ul style="list-style-type: none"> ・経済学研究科経済学専攻 	上記のほかに コピーを別途 1部	共同研究室閲覧用として （表紙もコピーで良い。）

②論文は、正本・副本ともハードカバーで製本し（公民連携専攻を除く）、表紙と背表紙に論文題目・氏名等を記入すること。金文字での印字が望ましいが、必ずしも金文字での印字でなくともよい。ただし、紙を貼る場合は剥がれないよう補強すること。副題がある場合は、背表紙にも必ず記入すること。

社会学、工学、国際地域学、生命科学、福祉社会デザイン、学際・融合科学研究科は仮製本での提出が認められているが、仮製本で提出するか本製本（ハードカバー）で提出するかは指導教授の指示に従うこと。

(見本)



(背表紙例)

(表紙例)

論文 題目・ 副題 専研 攻科 氏 名	○○年度 東洋大学修士学位論文 論文題目・副題 研究科・専攻・課程 学籍番号・氏名
---------------------------------------	--

③「修士学位論文審査願」は、正本・副本のそれぞれの表紙裏に貼付すること。

- ④修士学位論文・論文要旨の様式・枚数等は、次のとおりである。(特定課題研究論文は当該専攻の掲載頁を参照のこと。)

研究科・専攻	ワープロの使用	修士学位論文			論文要旨	
		枚数・字数	サイズ	様式	提出部数	枚数・字数
哲学専攻	可	制限なし	A4	自由	配布書類により指示する	2,000字程度
インド哲学仏教学専攻・仏教学専攻	可	制限なし		自由		
国文学専攻	可	制限なし		縦書		
中国哲学専攻	可	制限なし		縦書		
英文学専攻	可	制限なし		横書		
史学専攻	可	制限なし		縦書		
教育学専攻	可	40,000字以上		横書		
英語コミュニケーション専攻	可	制限なし		横書		
社会学専攻	原則使用	60,000字以上(図表を含む)		横書		
社会心理学専攻	原則使用	制限なし		自由		
法学研究科	可	制限なし		横書		
経営学研究科	原則使用	40,000字～80,000字程度		横書		
経済学研究科	可	制限なし		横書		
福祉社会デザイン研究科	可	60,000字以上		横書		
工学研究科	可	制限なし	横書	3	A4サイズ2枚	
国際地域学研究科	可	制限なし	横書	3	A4サイズ4枚	
生命科学研究科	可	制限なし	横書	3	A4サイズ2枚	
学際・融合科学研究科	可	制限なし	横書	3	A4サイズ2枚	

- ⑤経営学研究科においては、上記のほか、「修士学位論文要約」の提出が必要となる。(P.132参照)
- ⑥論文要旨は、原則パソコン(MSワード)で作成し、原稿とともに、CD-R等の記録媒体も提出すること。提出したデータは、「修士学位論文要旨・審査報告書」のための入稿原稿となる。したがって、**要旨以外のデータは入れないこと。**(ただし、公民連携専攻を除く。公民連携専攻は論文要旨のほかに、論文のデータも提出が必要となる。)

(6) 論文審査員について

主指導教授および副指導教授は、研究科委員会の議を経て、提出された論文のそれぞれ主査および副査となる。さらに、論文の審査等のため必要があるときには、研究科委員会の議を経て、当該論文に関連ある授業科目担当教員(非常勤講師を含む)を副査として加えることができる。

(7) 最終試験

- ①論文を提出した者に対しては、最終試験を行う。
- ②最終試験は、論文を中心として、これに関連ある授業科目について口述試験により行う。
- ③最終試験の日程等は、その都度掲示する。

(8) 修士学位論文または特定課題研究論文の可否の通知

- ①論文の可否は、論文の審査及び最終試験の結果を総合して判定する。
- ②合格した者については、修得した単位数を確認し、修了決定者発表により合格の旨を掲示する。

(9) 合格論文の取り扱い(文・社会・法・経営・経済学・福祉社会デザイン研究科のみ)

合格した論文のうち、正本は大学で保管し、閲覧に供される。副本は学位記授与式までに、副査から直接返却される。

●●博士学位請求論文●●

(1) 博士の種類

博士の学位には、課程博士と論文博士の2種類がある。

- ・課程博士(甲) : 博士後期課程在学中(退学または除籍からの再入学を含む)に論文を提出して学位を授与された者。
- ・論文博士(乙) : 博士後期課程在学中でない者であって、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格し、かつ専攻学術に関し博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認されて学位を授与された者。

(2) 博士学位請求論文(甲)について

①指導教授の決定、博士後期課程研究題目届等の提出

- 1) 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。副指導教授は、主指導教授の指示を受け、原則として各専攻の研究指導担当教員の中から決定すること。
- 2) 指導教授は、特別の理由がない限り変更できない。
- 3) 指導教授および研究題目が決定した後、「指導教授および博士後期課程研究題目届」に指導教授の署名・捺印を受けたうえ、担当窓口へ提出すること。この届は、毎年度提出しなければならない。
今年度の提出日程は、下記のとおりである。

所属キャンパス	用紙配布日程	提出締切日	提出場所(担当窓口)
白山キャンパス	通年制専攻	4月上旬	4月23日(土)
	セメスタ制専攻	春学期 4月上旬 秋学期※ 9月下旬	春学期 4月23日(土) 秋学期※ 10月8日(土)
※秋学期は、秋入学新生および秋学期復学者のみ提出すること。 秋入学者であっても、2年目以降は春学期にのみ提出すれば良い。			
白山第2キャンパス	4月入学生 4月上旬 秋入学生 9月下旬	4月入学生 5月9日(月) 秋入学生 10月28日(金)	国際地域オフィス
朝霞キャンパス	春学期 4月上旬 秋学期復学者 9月下旬	春学期 4月23日(土) 秋学期復学者 10月8日(土)	朝霞事務部 朝霞事務課
川越キャンパス	4月入学生 4月上旬 秋入学生 10月上旬	4月入学生 5月6日(金) 秋入学生 11月4日(金)	川越事務部教学課
板倉キャンパス	4月入学生 3月24・25日 秋入学生 9月24・26・27日	4月入学生 5月6日(金) 秋入学生 11月2日(水)	板倉事務部教学課

※上記期間内に余裕をもって提出すること。

- ②指導教授の指示により、東洋大学大学院学位規則第5条に基づく「課程による」学位請求論文を提出する者は、課程博士学位請求論文提出要件(次頁)を確認のうえ、所定の学位請求書等に必要事項を記入し、学位請求論文とともに担当窓口へ提出すること。今年度の提出日程は、次のとおりである。なお、博士学位請求論文には高度な研究成果が求められるため、その成果に当たっては指導教授と十分相談すること。

所属キャンパス	提出締切日	提出時間	提出場所(担当窓口)
白山キャンパス	9月修了 2011年4月14日(木)~4月16日(土)	10:00~13:00 14:00~19:00	教務部大学院教務課
	3月修了 2011年11月7日(月)~11月9日(水)	※土曜日 9:30~12:30	
白山第2キャンパス	9月修了 2011年5月9日(月)	9:30~12:30	国際地域オフィス
	3月修了 2011年11月12日(土)		
朝霞キャンパス	9月修了 2011年4月14日(木)~4月16日(土)	10:00~13:00 14:00~19:00	朝霞事務部 朝霞事務課
	3月修了 2011年11月7日(月)~11月9日(水)	※土曜日 9:30~12:30	
川越キャンパス	9月修了 2011年5月30日(月)~5月31日(火)	9:30~13:00 14:00~16:45	川越事務部教学課
	3月修了 2011年11月29日(火)~11月30日(水)		
板倉キャンパス	9月修了 2011年5月27日(金)	10:00~13:00 14:00~16:00	板倉事務部教学課
	3月修了 2011年11月25日(金)		

※上記期間内に余裕をもって提出すること。(提出時間厳守)

- ③提出に必要な書類は、担当窓口において提出の1カ月前より配付しているが、学位請求論文を提出する予定の者は、指導教授より提出を了承している旨の連絡を、所属キャンパスの担当窓口に入れてから受取りに来ること。

課程博士学位請求論文提出要件

研究科	提出要件
文 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学位を請求しようとする者は、指導教授の「研究指導」を受け、博士後期課程に在学していること。 2. 学位を請求しようとする者は、全国的または国際的規模の学会が発行するレフェリー制のある学会誌に、提出しようとする論文領域に関する論文を1点以上、発表していること。
社 会 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 査読制のある学術誌に第一著者として掲載された、当該領域の論文があること（掲載決定済みも可）。 2. 学会発表を1回以上おこなっていること。
法 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋大学大学院学則及び学位規則に適合していること。 2. 中間報告会で研究成果を報告していること。 3. 学位論文に関連した研究論文3編が学会誌、紀要等に発表されていること。但し、研究科委員会の判断により、修士学位論文及び学会又はそれに準ずる研究会における口頭発表をそれらに含めることができる。
経 営 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文3本の掲載（内1本は日本学術会議登録の学会またはそれに準ずる学会での査読論文であることが望ましい）。 2. 上記学会での報告を2回以上行うこと。
経 済 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士（甲）論文の申請は、東洋大学大学院学則及び学位規則の諸要件を満たしていること。 2. 学会報告が2回以上であること。 3. レフェリー付論文が1本以上あること。 4. 所定の年報、紀要等に記載された論文が1本以上あること。 5. 前3、4項の論文が共同論文である場合、共同執筆者全員より研究における学位請求者の役割を明記した文書を添えること。 6. 博士号取得のための学内発表会で発表すること。
福祉社会デザイン ※詳細は各専攻・各 コースにて確認す ること	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過去5年以内に審査付き雑誌に単著もしくはファーストオーサーとして掲載された研究論文が1点以上存在すること（指導教員に確認すること）。 2. 過去5年以内に著書、設計、作品その他の研究成果物を通じて前項に準じる業績を有すると認められること。
工 学 ※詳細は各専攻にて 確認すること	<p>[機能システム専攻] 論文（学会誌などの査読のあるもの）が2編以上あること。上記2編のうち、少なくとも1編は筆頭著者であること、および英語論文1編以上を含むこと。（掲載の通知があれば可）</p> <p>[バイオ・応用化学専攻] 英文論文（査読のあるもの）が2編以上あること。 2編は筆頭著者であること。（掲載決定の通知があれば可）</p> <p>[環境・デザイン専攻] 論文が2編以上あること。うち、1編は筆頭著者であること。論文は、学会誌などの査読があるものとする。（掲載決定の通知があれば可）</p> <p>[情報システム専攻] 英文論文が1編以上あること。（査読があるもので、掲載決定の通知があれば可）</p>
国 際 地 域 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学位を請求しようとするものは、指導教授の「研究指導」を受け、博士後期課程に在学していること。 2. 学位を請求しようとするものは、博士論文のテーマに関連が深い分野の研究において以下のいずれかに該当していること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1著者で外部査読付き論文1編＋第1著者で学内査読付き紀要論文1編＋第1著者で口頭発表論文1編以上を審査時点までに発表した者。（査読付き論文の場合は審査時点で論文掲載予定証明書があれば可） (2) 第1著者で外部査読付き論文1編＋第1著者で口頭発表論文3編以上を審査時点までに発表した者。（査読付き論文の場合は審査時点で論文掲載予定証明書があれば可）
生 命 科 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原著論文は1報以上。少なくとも1報は、論文の査読が厳格になされている定期出版の英文学術雑誌で、第一著者でかつ full paper であること。（連名者がある場合には、別に定める承諾書の提出が必要） 他大学において博士前期課程を修了後、博士後期課程に入学したものについては、博士後期課程において原著論文が1報以上あること。（連名者がある場合には、別に定める承諾書の提出が必要） 2. 第1年次および第2年次の終わりに研究報告書が提出されていること。
学際・融合科学 ※詳細は専攻にて 確認すること	<p>国際論文誌が2編以上あること。 上記2編のうち、少なくとも1編は筆頭著者であること（掲載の通知があれば可）</p>

課程博士学位請求論文審査基準

本学の課程博士学位請求論文は、以下の基準により厳正に審査される。

研究科	論文審査基準
文 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該論文が、従来の研究成果の十分な吸収の上に立って、その適切な活用を行っていると同時に、かつ当該研究分野において新たな知見を付与するものであり、学位請求論文提出者の独創性を示すものであること。 2. 当該論文が、分析の面においても論理展開の面においても、自立的な研究者として研究活動を行うことのできる、学位請求論文提出者の高度な研究能力を示す実証性、体系的性を具えたものであること。 3. 当該論文が全般において、高度な専門的業務を遂行するに十分な、学位請求論文提出者の学識と能力とを有していることが認められる高水準のものであること。
社 会 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学位請求論文が、先行研究を踏まえ、十分な資料やデータを駆使し、妥当な研究方法によって、論理的・一貫性または実証性の下に、新しい知見を付与するものであること。 2. 学位請求論文が、学位請求論文提出者の高度な専門的知識・学識・研究能力を示す論文であること。
法 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の作成において、十分な内外国の文献・資料が適切に引用されていること。尚、関連科目及び外国語については、審査委員会において口述をもって審査されるものとする。 2. 論文がその研究の対象となる分野に関する従来の研究成果を十分に踏まえており、かつ、精緻な理論によって裏付けされた独創性ないし新規性がそれに認められること。 3. 論文の内容から、その作成者が相当な研究能力を有することが認められること。
経 営 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学位請求論文が、現代の経営社会に貢献するものであり、未開拓の研究領域に挑戦し、そこに新たな知見を加え、また独創性を有していること。 2. 学位請求論文が、上記1に加え、高い完成度を有し、首尾一貫した論理に支えられたものであること。 3. 学位請求論文提出者が、完成した研究者能力もしくは研究者として自立して活躍できる高度な研究能力もしくは高度な専門的業務を遂行する能力を有すると認められること。
経 済 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該論文が、高い学術的価値を持つこと。すなわち、当該分野の先行研究の成果を十分かつ体系的に踏まえ、たうえで、厳密かつ合理的な論理展開によって結論を導き、それが新しくかつ社会的意義の大きい知見を当該分野に対して提供するものであること。 2. 当該論文が、学位請求者が今後独立して研究を遂行するに足る能力と学識を備えていることを示すものであること。
工 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工学の高度な専門知識と国際的な幅広い視野を習得しており、高度な専門性を基盤にした独創性のある研究を自ら実施できる能力を有すること。 2. 自ら研究を企画・実践し、得られた結果を考察し、論文として完成させ、かつ明快に自らの研究内容を発表できる能力のあること。
国 際 地 域 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文の学問的、社会的貢献 当該論文が、国際地域学における学問的、社会的な発展に貢献すること。 2. 先行する研究成果の吸収 当該論文が、先行する研究成果の十分な吸収の上に立って、その適切な活用を行っていると同時に、該当分野における新たな知見を付与するものであること。 3. 独創性 当該論文が、学位請求論文提出者の十分な独創性を示すものであること。 4. 論文の完成度 当該論文が、高い完成度を有し、首尾一貫した論理に支えられていること。
生 命 科 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該論文が、国際的な幅広い視野に立ち、従来の研究成果を踏まえ、高度な専門性を基盤にした独創性のある研究で、当該分野において新規の知見を提供するものであること。 2. 当該論文が、学位請求論文提出者の学識および研究能力を示す論文であること。
学 際 ・ 融 合 科 学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当該論文が先行研究を踏まえ、十分なデータあるいは正しい理論の展開に基づいて、新しい知見を提供するものであること。 2. 当該論文が、学位請求者が研究者として研究を遂行する能力と学識を備えていることを示すものであること。

研究科	論文審査基準
福祉社会デザイン	<p>社会福祉学専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文全体が明確な主題に基づいて構成され、記述されていること。 2. 関連する学会のこれまでの研究蓄積に付け加えることのできる新たな知見が含まれていること。 3. 論文作成上の手続きが明確であること <ol style="list-style-type: none"> (1) 既存文献や資料の十分なレビューが行われており、その結果を踏まえた独自のテーマ設定が行われていること。 (2) 各章の展開と相互の関連が明確であること。 (3) 内容の説明を行うにあたって、十分な理論的・経験的裏づけを持っていること。 (4) 十分な調査データや資料の収集が行われ、手続きに従って適切な分析・検討が行われていること。 (5) 論文の主題に即した適切な考察・結論が示されていること。 4. その他学位論文にふさわしい内容となっていること。
	<p>ヒューマンデザイン・人間環境デザイン専攻</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の位置づけの適切性 既往文献、資料等の十分なレビューがなされ、学位論文としての課題が明確であり、学術的価値が認められるものであること。 2. 題目及び全体構成 論文題目が適切であること、本文の構成、表現、図表、文献等の引用が適切であること、論文全体のバランスがとれ、全体構成が完結していること。 3. 妥当性 論旨、論拠が妥当であり、明確であること。 4. 独創性 導入した概念、発見した事実が独創的であること。 5. 信頼性 研究方法や分析方法、論拠とするデータ等が的確であり信頼性があること。 6. 新規性、先駆性 使用した概念や方法、得られた結論の新規性、先駆性があること。 7. 有用性 論文の結論が明確に示されており、当該専門分野の今後の展開において有用であること。 8. 以上の他、東洋大学が規定する「学校法人東洋大学行動規範」「東洋大学研究活動規範」に定める事項を遵守していること。

配付書類は、下記のとおり。

- ①様式(甲)－1 ②様式(甲)－2 ③様式(甲)－3 ④様式(甲)－4 ⑤様式(甲)－5……各1枚

提出物

①学位請求論文…5部

- 1) 学位請求論文は、国会図書館と本学の図書館に保存されるので、ハードカバーで製本（黒表紙／金文字）すること（社会学、工学、国際地域学、生命科学、福祉社会デザイン、学際・融合科学研究科は仮製本での提出が認められている。）。大きさはA4で、枚数、様式については特に定められていないため、指導教授の指示に従うこと。
- 2) 表紙と背表紙に論文題目・氏名等を記入すること（副題がある場合は、副題を背表紙にも必ず記入すること）。
- 3) 表紙には年度（西暦）・研究科・専攻・課程・学籍番号も明記すること。
- 4) 審査に合格した学位請求論文は、国会図書館と本学の図書館に保存されるが、残りの論文の取り扱いについては主査に確認すること。

(表紙例)

2011 年度
東洋大学博士学位請求論文

題目・副題

○○研究科△△専攻博士後期課程

学籍番号 氏名

(背表紙例)

題目・副題

△○研究科
△○専攻

氏名

英文で作成の場合

Title
.

Name

Doctor Course
. Course
Graduate School of
Toyo University, Japan
Academic Year's 2011

2011 Doctor's Thesis : Title
Name

②学位請求論文提出票 (様式(甲)-1) … 1部

- 1) 指導教授承認印欄は、現在指導を受けている主・副指導教授に署名・捺印をもらうこと。
- 2) 学位請求論文・提出書類一式全てを確認してもらったうえで署名・捺印をもらうこと。

③学位請求書 (様式(甲)-2) … 1部

- 1) 提出書類と提出部数等を確認し、必要事項を記入すること。

④履歴書・業績書 (様式(甲)-3) … 5部

- 1) 「履歴書・業績書」は、5部用意すること。(1部はオリジナル(写真貼付、押印)。他4部はカラーコピーでも可。)
- 2) 学歴欄は年月日まで必要なため、確認して必ず記入すること。なお、本学の場合、入学の月日は4月1日(秋入学は提出前に事務局に確認すること)、卒業・修了の月日は3月25日(9月卒業・修了は9月25日)となる。
- 3) 休学していた期間がある者は、その期間も記入すること。

⑤学位請求論文要旨… 5部

- 1) A4の用紙で6枚以内を目安とする。
- 2) 表紙は必須ではないが、必ず先頭に題目・氏名等を入れること。

⑥受領書 (様式(甲)-4) … 1部

- 1) 学位請求論文題目等を記入して提出すること。

⑦共著者同意承諾書 (様式(甲)-5) … 1部

- 1) 共著の著書・翻訳書・論文等を博士学位請求論文に使用する場合、または博士学位請求論文提出要件の業績とする場合は、必ず提出すること。

⑧博士学位論文審査料 20,000円……所属の研究科委員会で論文受理後、本人宛に請求の通知をするので、事務局からの指示に従って納入すること。

その他

最終試験の時期については各自異なるため、審査開始後に各自で主査に確認すること。

重要 論文題目は重要で、論文(表紙・背表紙・中表紙)学位請求書、受領書、論文要旨の6箇所の題目が一字一句同一でないとう付できない。「」のあるなし、「と」「の」の違い、「-」「・」などに十分注意して提出前に再度確認すること。

(3) 博士学位請求論文（乙）について

- ①本学大学院学位規則第6条に基づく「課程によらない」学位請求論文を提出する者を対象とする。
- ②学位請求論文（乙）を提出しようとする者は、事前に専攻主任に相談し、専攻での審査が可能かどうか、提出要件を満たしているかの確認をとらなければならない。
- ③専攻主任から論文提出の許可を受けた者には、担当窓口で必要書類を配付するので、必要事項を記入し、学位請求論文とともに担当窓口へ提出すること。
- ④博士学位請求論文（乙）の提出期限は特に定められていないが、提出に当たっては、事前に担当窓口へ申し出ること。

5. 博士後期課程研究報告書

- ①博士後期課程在学者は、毎年度始めに当該年度の研究計画を提出し、年度末に研究についての報告書を提出しなければならない。この研究計画の記入用紙は、前記の「指導教授の決定・博士後期課程研究題目届等の提出（P.37参照）」に含まれている。
- ②提出された研究報告書は、「博士後期課程研究報告書」として毎年度刊行される。今年度の研究報告書用紙の配布・提出日程等は、下記のとおりである。
また、年末年始は教員が大学に不在の場合が多いため、余裕をもって指導教授の署名・捺印を受けること。

所属キャンパス	用紙配布日程		提出締切日	提出場所
白山キャンパス	2011年9月 修了予定者	7月上旬	2011年9月9日（金）	教 務 部 大学院教務課
	上記以外	11月上旬	2012年1月7日（土）・10日（火）・11日（水）	
白山第2キャンパス	2011年9月 修了予定者	7月上旬	2011年9月9日（金）	国際地域オフィス
	上記以外	11月上旬	2012年1月11日（水）	
朝霞キャンパス	2011年9月 修了予定者	7月上旬	2011年9月9日（金）	朝霞事務部 朝霞事務課
	上記以外	11月上旬	2012年1月7日（土）・10日（火）～11日（水）	
川越キャンパス	秋入学生	6月上旬	2011年7月8日（金）	川越事務部 教学課
	4月入学生	12月上旬	2012年1月6日（金）	
板倉キャンパス	2011年9月 修了予定者	7月上旬	2011年9月9日（金）	板倉事務部 教学課
	上記以外	11月上旬	2012年1月10日（火）	

※上記期間内に余裕をもって提出すること。

- ③研究報告書は下記の要領で作成する。
 - ・ 字数は3,600字以内。印刷時には、一人当たり40字×90行以内となるので、図表等も含めてこの分量以内とすること（厳守）。段組みはしないこと。
 - ・ 報告書は原則パソコン（MSワード）で作成することとし、A4で作成し、所属研究科・専攻・氏名・研究題目、末尾に総文字数を記入すること。なお、所定の研究報告書（原本及び写し 各部1部）とともに、CD-R等の記録媒体も提出すること。
 - ・ 報告書を作成した後、主指導教授から「主指導教授の所見」の記入を受け、その後に主指導教授・副指導教授の署名・捺印を受けてから提出すること。
 - ・ 報告書は印刷物として刊行するが、その際には校正を1回だけ行う。校正の時期は2月上旬の予定。

6. 学籍

(1) 標準修業年限・最長在学年限

①博士前期課程・修士課程

通年制	標準修業年限				在学期間の延長			
	1年	2年	3年	4年	3年	4年	5年	6年
セメスタ制	1セメスタ	2セメスタ	3セメスタ	4セメスタ	5セメスタ	6セメスタ	7セメスタ	8セメスタ
在学できる最長在学年限は4年である ※1								

※1 休学期間は在学年限に算入しない=休学を含めると最長在籍期間は6年になる。

◆通年制
文学・社会学・法学・経営学
(経営学専攻の2008年度以前入
学生)・経済学(除く公民連携
専攻)研究科

◆セメスタ制
上記以外の研究科および専攻

②博士後期課程

通年制	標準修業年限						在学期間の延長					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	7年	8年	
セメスタ制	1セメスタ	2セメスタ	3セメスタ	4セメスタ	5セメスタ	6セメスタ	7セメスタ	8セメスタ	9セメスタ	10セメスタ	11セメスタ	12セメスタ
在学できる最長在学年限は6年である ※2												

※2 休学期間は在学年限に算入しない=休学を含めると最長在籍期間は9年になる。

(2) 休学

①休学について

病気や怪我、その他やむを得ない理由で連続3か月以上授業に出席することができない場合は、研究科委員会の許可を得て休学することができる。

②手続・期間・延長について

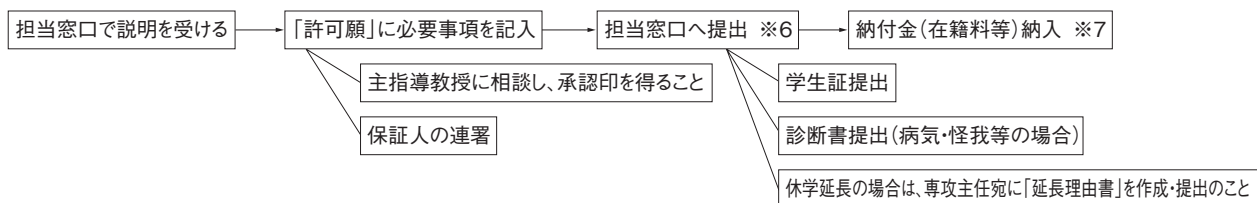
	通年制		セメスタ制	
	前期	後期	春学期	秋学期
当該年度休学の場合の手続受付	6月末まで	12月末まで	6月末まで	12月末まで
当該年度において次年度休学予定の場合の手続受付	当該年度の1月末まで		次年度春学期の場合は、当該年度の1月末まで	次年度秋学期の場合は、次年度の7月末まで
休学期間	休学許可を受けた日から3月31日まで		休学許可を受けた日から春学期終了まで	休学許可を受けた日から3月31日まで
休学期間終了後	次年度の学年の始めに復学しなければならない		次学期の始めに復学しなければならない 次の秋学期まで延長可能 ※3	次学期の始めに復学しなければならない 次の春学期まで延長可能 ※4
休学期間延長 ※5	特別な事情の場合、更に1年に限り休学可能		特別な事情の場合、更に2学期分に限り休学可能	
通算休学期間	博士前期課程・修士課程は通算2年間を超えることができない		博士前期・修士課程は通算4学期分を超えることができない。	
	博士後期課程は通算3年間を超えることができない		博士後期課程は通算6学期分を超えることができない。	

※3 春学期に休学した場合は、次の秋学期も休学できるが、通算して2学期分(=1年間)とする。この場合も次頁の手続きが必要。

※4 秋学期に休学した場合は、次の春学期も休学できるが、通算して2学期分(=1年間)とする。この場合も次頁の手続きが必要。

※5 休学期間の延長を希望する場合は、「延長理由書」が必要。

③手続き方法



※6 研究科委員会で許可を得た場合は、「休学許可書」を発送する。

※7 ①在籍料の納入方法等については、あらかじめ担当窓口で確認すること。

②所定の期間内に在籍料の納入を怠ると「除籍」となる。

④留学生の休学について

留学生は勉学の目的で日本滞在が許可されているため、原則として休学はできない。病気等でやむを得ず休学した場合でも、正当な滞在理由（入院等）がない限り、一旦母国へ帰国することになる。休学中に帰国せず、3カ月以上正当な滞在理由なく日本に滞在していた場合は、入管法により在留資格を取り消されることもあるので注意すること。また、休学中はアルバイトをすることもできない。

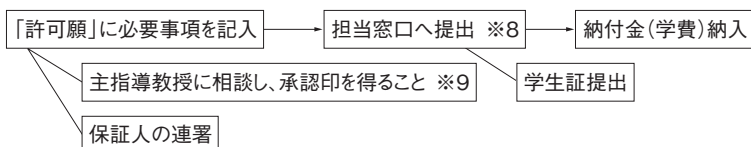
やむを得ず休学を考えている場合は、入国管理局で在留資格の相談をすることが望ましい。また、許可願の提出時には、大学所定の帰国届も必ず担当窓口へ提出すること。

(3) 復学

①復学について

「許可願」を担当窓口へ提出すること。

②手続き方法

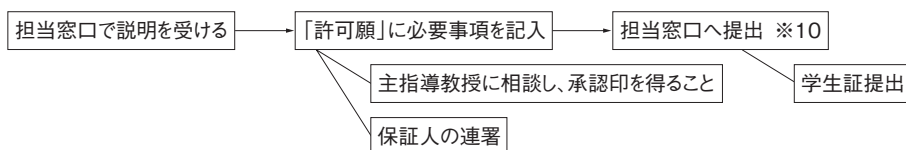


※8 提出期限：通年制＝1月末まで、セメスタ制の春学期に復学＝1月末まで、セメスタ制の秋学期に復学＝7月末まで

※9 在学時の主指導教授が不在の場合は、専攻主任に相談し、専攻主任の承認を得ること。

(4) 退学

①手続き方法



※10 研究科委員会で許可を得た場合は、「退学許可書」を発送する。

②退学後の証明書について

申請があった場合は、退学等の項目を明記した「在籍期間証明書」を担当窓口にて有料で発行する。

(5) 除籍

①除籍について

次の場合は「除籍」の取扱いとし、「除籍通知書」を発送する。

- ・所定の期日までに納付金（学費）を納入しない場合
- ・在学できる年数を超えた場合
- ・新生で指定した期限までに履修登録を行わなかった場合や、就学の意思がないと認められた場合

②除籍後の証明書について

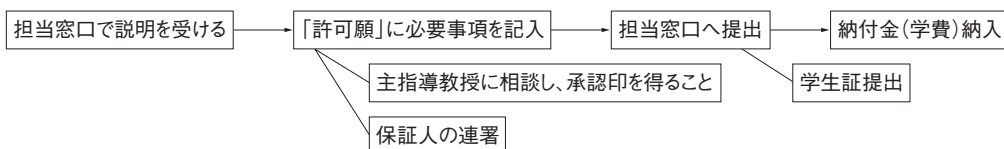
申請があった場合は、除籍等の項目を明記した「在籍期間証明書」を担当窓口にて有料で発行する。

(6) 在学期間の延長

①「在学期間の延長」とは

標準修業年限の期間在学している者が、修了要件を満たしていない場合で、引き続き在学を希望すること。

②手続き方法



※工学研究科、学際・融合科学研究科は、学生証有効期限の延長と学生証裏面シールの交付手続き時の意思確認をもって、在学期間の延長手続きとします。

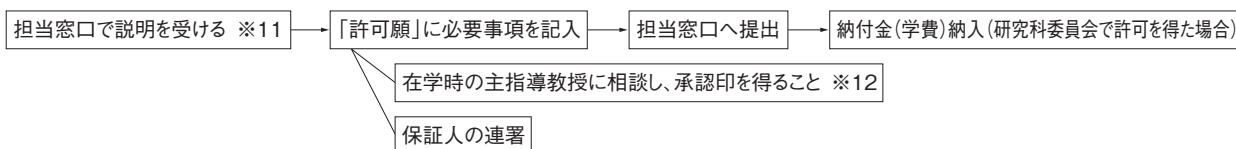
(7) 再入学

1) 退学者および除籍者の再入学

①再入学について

退学者および除籍者（在学年数超過による除籍を除く）が再入学を願い出た場合は、再入学を願い出ている当該研究科委員会での審議を経て、これを許可することがある。

②手続き方法

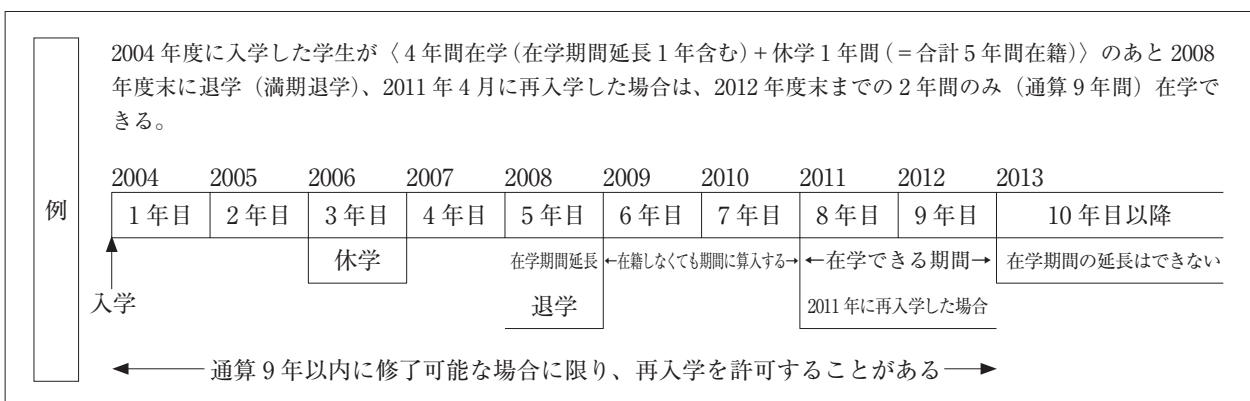


※11 期限：通年制＝1月末まで、セメスタ制の春学期に再入学＝1月末まで、セメスタ制の秋学期に再入学＝7月末まで

※12 在学時の指導教授が不在の場合は、専攻主任に相談し、承認を得ること。

2) 博士後期課程退学者の再入学

①博士後期課程の学生が退学（満期退学を含む）し、学位請求論文提出のために再入学する場合は、最長在学年限（6年）内において、入学の年から退学・休学期間を含め、通算9年以内に修了可能な場合に限り許可することがある。



②博士後期課程の学生が退学（満期退学を含む）し、再入学しないで博士の学位を請求する場合は、「課程によらない者の学位請求論文の提出」（本学「学位規則」第6条）として取扱う。

(8) 住所等の変更手続きについて

- ①大学に届け出ている「本人氏名」「本人住所（電話番号・携帯電話番号含む）」等に変更があった場合は、速やかに「東洋大学 Web 情報システム」で変更手続きを行うか、担当窓口へ「変更届」を提出すること。
- ②「本人氏名」の変更（改姓等）や「本籍地」を変更した場合は、〈戸籍抄本〉を担当窓口へ提出すること。
- ③外国人学生（定住者等も含む）が住所やビザの変更・更新をした場合は、その都度〈登録原票記載事項証明書〉を担当窓口へ提出すること。

7. 委託聴講生制度（特別科目履修生）

本学大学院学則第8条に基づき、下記の研究科・専攻において、他大学の大学院と協定して授業科目の委託を実施している。

研究科・専攻（協定名）	協定校				
文学研究科哲学専攻	上智大学				
文学研究科インド哲学仏教学専攻・ 仏教学専攻	国際仏教学大学院大学（上限8単位）				
	〔仏教系四大学単位互換〕 駒澤大学 大正大学 立正大学				
〔英文学専攻課程協議会〕 文学研究科英文学専攻	青山学院大学 日本女子大学 東京女子大学	法政大学 立教大学 津田塾大学	上智大学 聖心女子大学 明治大学	明治学院大学 東北学院大学	
文学研究科史学専攻	青山学院大学 専修大学	中央大学 國學院大學	上智大学 国士舘大学	明治大学 駒澤大学	立教大学 東海大学
文学研究科教育学専攻	青山学院大学 聖心女子大学				
〔社会福祉学専攻課程協議会〕 社会学研究科社会福祉学専攻、 福祉社会デザイン研究科 全 専 攻	上智大学 日本社会事業大学 関東学院大学	明治学院大学 大正大学 立教大学	日本女子大学 立正大学 法政大学	淑徳大学 ルーテル学院大学	
〔社会学分野〕 社会学研究科全専攻、福祉社会 デザイン研究科福祉社会シ ステム専攻	茨城大学 都留文科大学 中央大学 法政大学 創価大学 大妻女子大学	埼玉大学 駒澤大学 東京国際大学 武蔵大学 立正大学 上智大学	千葉大学 成蹊大学 常磐大学 立教大学 明治学院大学	東京外国語大学 専修大学 日本女子大学 流通経済大学 明治大学	
経営学研究科	明治学院大学				
経済学研究科経済学専攻	青山学院大学 法政大学	専修大学 明治学院大学	中央大学 明治大学	日本大学 立教大学	
工 学 研 究 科	東京電機大学理工学研究科※				

- ①修得した単位は、本学大学院他研究科・専攻の科目を含めて10単位まで、修了単位として認定することができる。聴講希望者は、指導教授の承認を得た後、本学担当窓口へ申し出ること。
- ②申し込み期間は、受け入れ先大学の委託聴講生受付期間内とする（秋学期開講科目であっても、受付期間が春学期のみの大学もあるので注意すること）。各協定校の時間割・履修要覧等は、本学各担当窓口で閲覧できる。申し込み手続等については、本学担当窓口へ問い合わせること。

③聴講に必要な書類は、本学担当窓口で配布する。また、聴講に必要な手数料は、下記のとおりである。

研究科・専攻（協定名）	手数料
文学研究科インド哲学仏教学専攻・ 仏教学専攻	国際仏教学大学院大学の授業科目を履修する場合は、1単位 500円 仏教系四大学単位互換制度で授業科目を履修する場合は、1科目 3,000円
[社会学分野] 社会学研究科全専攻、福祉 社会デザイン研究科福祉社会 システム専攻	国立大学の授業科目を履修する場合は、手数料不要。 それ以外の場合は、2単位 1,000円、4単位 2,000円
上記以外の各研究科・専攻	2単位 1,000円、4単位 2,000円

※工学研究科の学生が東京電機大学理工学研究科で聴講する場合は協定により手数料不要。

8. 「首都大学院コンソーシアム協定聴講生」制度

本学大学院学則第8条に基づき、下記の「首都大学院コンソーシアム」加盟大学院の開講授業科目を協定聴講生として聴講することにより、課程の修了に必要な単位として修得することができる。詳細は各キャンパス窓口で確認すること。科目によっては聴講できない場合があるので注意すること。

なお、経営学研究科ビジネス・会計ファイナンス専攻、経済学研究科公民連携専攻は本協定に加盟していないので注意すること。

協 定 校				
共立女子大学	順天堂大学	専修大学	玉川大学	中央大学
東京電機大学	東京理科大学	日本大学	法政大学	明治大学

- ①修得した単位は、本学大学院他研究科・専攻の科目を含めて10単位まで、修了単位として認定することができる。聴講希望者は、指導教授の承認を得た後、本学担当窓口へ申し出ること。
- ②申し込み期間は、受け入れ先大学の協定聴講生受付期間内とする（秋学期開講科目であっても、受付期間が春学期のみの大学もあるので注意すること）。各協定校の時間割・履修要覧等は、本学担当窓口で閲覧できる。申し込み手続等については、本学担当窓口へ問い合わせること。
- ③聴講に必要な書類は、本学担当窓口で配布する。
- ④聴講に必要な手数料は、下記のとおりである。
2単位 1,000円、4単位 2,000円
上記の金額を受け入れ先大学の担当窓口で支払うこと。

9. 研究指導委託制度

本学大学院学則第9条に基づき、下記の研究科において、外部研究所等と協力して研究指導の委託を行っている。

研究科・専攻	協定機関
工 学 研 究 科 生 命 科 学 研 究 科 学 際 ・ 融 合 科 学 研 究 科	独立行政法人 理化学研究所 独立行政法人 海洋研究開発機構
工 学 研 究 科 国 際 地 域 学 研 究 科	独立行政法人 国立環境研究所

10. 大学共同利用機関における履修と単位認定（対象：史学専攻）

文学研究科史学専攻において、国文学研究資料館史料館の史料管理学研修会の長期研修課程を履修（前期4週間、後期4週間程度の集中講義形式）することで、「史料管理学」4単位を修得することができる。

史料管理学研修会は、近年の歴史学研究において古文書・古記録はもとより、絵画、映像、音声資料、遺跡など多様な史資料の整理保存の問題が盛んに論議され、公文書館法、国立公文書館法の制定により、都道府県の文書館が設置される状況の中で、文書館や史料館等に従事する専門職員（アーキビスト）の養成を目的として開設されたもので、史学専攻ではここでの研修を大学院教育協力制度をもつ大学共同利用機関における履修として単位を認定する。

希望者は、当該科目の履修登録を行うとともに、国文学研究資料館史料館のホームページから実施要項を入手し、所定の手続期間内に大学院教務課窓口へ申込書類を提出すること。手続期間については掲示で指示する。

※定員を上回る応募があった場合は、史料館において選考が行われる。したがって、所定の手続を行った場合でも、必ず履修できるとは限らないため注意すること。

11. 教育職員免許状

(1) 本大学院において取得できる免許状は下表のとおりであり、取得できる免許教科の種類は、別表1のとおりである。

取得可能な専修免許状	専修免許状取得に必要な免許状	取得条件	取得に関する科目
高等学校教諭専修免許状	高等学校教諭一種免許状 (旧、高等学校教諭二級普通免許状) (授与又は授与のための資格を得ている)	・本大学院の課程に1年以上在学し、30単位以上修得 または	履修方法にしたがい、当該教科に関する科目を24単位以上修得
中学校教諭専修免許状	中学校教諭一種免許状 (旧、中学校教諭一級普通免許状) (授与又は授与のための資格を得ている)		
特別支援学校教諭専修免許状 (教育学専攻のみ)	特別支援学校教諭一種免許状 (授与又は授与のための資格を得ている)	・同単位を修得し修士の学位取得	

(2) 免許状取得に関する科目

①高等学校教諭専修免許状 及び 中学校教諭専修免許状

取得に必要な科目は、別表2 (P.50参照) に基づき、各専攻の履修方法にしたがい、当該教科に関する科目を24単位以上修得しなければならない。

②特別支援学校教諭専修免許状 (対象：教育学専攻)

取得に必要な科目は、別表2 (P.50参照) に基づき、教育学専攻の履修方法にしたがい、当該教科に関する科目を24単位以上修得しなければならない。

(3) 免許状の申請

①本学では修了と同時に所定の基礎資格を取得し、かつ所定の単位を修得した者に限り、各人の申請を代行（一括申請）し、学位記授与式（卒業式）当日に免許状を手交する。

②白山キャンパスの一括申請希望者は、4月の履修登録時に大学院教務課窓口へ申し出ること。

③申請（一括申請）手続きについては、7月上旬（白山キャンパス）・10月下旬（川越キャンパス）の掲示で確認すること。

※川越キャンパスについては、掲示等に注意し、不明な点は川越事務部教学課窓口に相談すること。

なお、個人で申請する際の申請先等は下記のとおりである。

〈申請先〉住民登録をしている都道府県の教育委員会（通常は都道府県庁の教育職員免許状を発行する部署）

〈申請に必要な書類・受付時期・免許状発行日〉申請先によって異なるので、各自で問い合わせること。

(4) 教育職員免許状取得のための学部授業科目の履修について (白山キャンパス・朝霞キャンパス)

教育職員免許状取得のため、学部で開講されている授業科目の履修を希望する場合は、担当窓口申し出ること。なお、1年間で履修できる上限を、通年開講科目は5科目、半期開講科目は10科目までとする。学生個々により条件が異なるので、必ず事前に問い合わせるか、掲示で確認すること。

また、この制度では、教育職員免許状取得に必要な教職関連科目(教科含む)の一部を、本学の学部通学課程において履修・修得していることが前提となるので注意すること。

別表1 (2011年度入学生に適用)

研究科	専攻	免許教科の種類		
		高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状	その他
文学	哲学	公民	社会	
	インド哲学仏教学	公民・宗教	社会・宗教	
	国文学	国語	国語	
	中国哲学	国語	国語	
	英文学	英語	英語	
	史学	地理歴史	社会	
	教育学	地理歴史・公民	社会	特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)
	英語コミュニケーション	英語	英語	
社会学	社会学	公民	社会	
	社会心理学	公民		
法学	私法学	公民	社会	
	公法学	公民	社会	
経営学	経営学	商業		
経済学	経済学	地理歴史・公民	社会	
工学	機能システム	理科・工業	理科	
	バイオ・応用化学	理科	理科	
	環境・デザイン	工業		
	情報システム	情報		

注意：2010年度以前入学生については、当該入学年度の要覧で確認すること。

教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要がある。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は、教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行うこと。

教員採用試験(第1次・第2次)に合格した場合は、必ず各キャンパス教務担当窓口へ届け出ること。

教員免許更新制について

教員免許状取得後10年ごとに更新講習を受け修了認定されることにより、有効期間が更新される教員免許更新制が平成21年に施行されたが、文部科学省では、教員の資質向上のための教員免許制度の抜本的な見直し(教員養成課程の充実や専門免許状制度の導入の検討を含む。)に着手し、その過程において現行制度の効果等を検証することとなった。新たな教員免許制度の内容及び移行方針を具体化する中で、現在の教員免許更新制の在り方について結論を得ることが示されている。日頃から教育関連のニュースによく目を通しておくとともに、教職課程の履修に際しては、自分自身の教職に対する意思を再確認してほしい。

別表2

(2011年度入学生に適用)

研究科	専攻	授業科目			
文 学	哲 学	哲学特論 近世哲学研究 現代哲学演習Ⅰ 印度哲学特論	哲学演習 近世哲学演習Ⅰ 現代哲学演習Ⅱ 中国哲学研究	古代中世哲学研究 近世哲学演習Ⅱ 論理学特論 日本哲学特論	古代中世哲学演習 現代哲学研究 倫理学特論 日本哲学演習
	インド哲学仏教学	サンスクリット文献研究Ⅰ 初期仏教研究Ⅰ 大乘仏教研究Ⅲ	インド哲学研究Ⅰ 初期仏教研究Ⅱ 漢文仏典研究Ⅰ	インド哲学研究Ⅱ 大乘仏教研究Ⅰ 中国仏教研究Ⅰ	大乘仏教研究Ⅱ 日本仏教研究Ⅰ
	国 文 学	国文学特論Ⅰ 国文学特論Ⅵ 国文学演習Ⅴ 国語学特論Ⅱ	国文学特論Ⅱ 国文学演習Ⅰ 国文学演習Ⅵ 国語学演習Ⅰ	国文学特論Ⅲ 国文学演習Ⅱ 国文学演習Ⅶ 国語学演習Ⅱ	国文学特論Ⅳ 国文学演習Ⅲ 国文学演習Ⅷ 比較文学 中国文学特論
	中 国 哲 学	中国文学特論Ⅰ 中国語学研究Ⅰ	中国文学特論Ⅱ 中国語学研究Ⅱ	中国文学演習Ⅰ 文献研究(東洋)	中国文学演習Ⅱ
	英 文 学	英文学特論Ⅰ 英文学演習Ⅱ 英語学特論Ⅰ 英米文学思想	英文学特論Ⅱ 米文学特論 英語学特論Ⅱ	英文学特論Ⅲ 米文学演習 英語学特論Ⅲ	英文学演習Ⅰ 比較文学演習 英語学演習
	史 学	日本史学特論Ⅰ 日本史学演習Ⅰ 東洋史学特論Ⅰ 東洋史学演習Ⅲ 西洋史学演習Ⅱ	日本史学特論Ⅱ 日本史学演習Ⅱ 東洋史学特論Ⅱ 西洋史学特論Ⅰ 西洋史学演習Ⅲ	日本史学特論Ⅲ 日本史学演習Ⅲ 東洋史学特論Ⅲ 西洋史学特論Ⅱ 文献研究(日本)	日本史学特論Ⅳ 日本史学演習Ⅳ 東洋史学演習Ⅰ 西洋史学特論Ⅲ 文献研究(東洋) 日本史学特論Ⅴ 日本史学演習Ⅴ 東洋史学演習Ⅱ 西洋史学演習Ⅰ 文献研究(西洋)
	教 育 学	[地理歴史・公民・社会] 学校教育研究特殊講義 比較教育史演習 教育学説研究演習			
	[特別支援学校] 発達障害児教育研究特殊講義 臨床教育心理学研究演習 臨床教育心理治療法特殊講義				
	発達障害児教育研究演習 発達障害児臨床心理研究特殊講義 学習心理学特殊講義				
	臨床教育心理学特殊講義 カウンセリング実習 心理適応論研究演習				
英語コミュニケーション	英語文法分析演習 翻訳・通訳論演習 英語文学・英語文化 英語コミュニケーション教育	日英対照言語論演習 異文化コミュニケーション テキスト理論	語用論演習 スピーチコミュニケーション グローバル英語教育		
社会学	社 会 学	社会学特論Ⅰ 社会学特論Ⅴ 社会学特論Ⅸ 文化人類学特論Ⅲ 文化人類学特論Ⅶ 社会情報学特論Ⅳ 社会学演習Ⅳ 社会情報学演習Ⅱ	社会学特論Ⅱ 社会学特論Ⅵ 社会学特論Ⅹ 文化人類学特論Ⅳ 社会情報学特論Ⅰ 社会学演習Ⅰ 文化人類学演習Ⅰ 社会情報学演習Ⅲ	社会学特論Ⅲ 社会学特論Ⅶ 文化人類学特論Ⅰ 文化人類学特論Ⅴ 社会情報学特論Ⅱ 社会学演習Ⅱ 文化人類学演習Ⅱ 社会情報学演習Ⅳ	社会学特論Ⅳ 社会学特論Ⅷ 文化人類学特論Ⅱ 文化人類学特論Ⅵ 社会情報学特論Ⅲ 社会学演習Ⅲ 社会情報学演習Ⅰ
	社 会 心 理 学	基礎社会心理学 社会心理学研究法Ⅳ 社会心理学特論Ⅲ 社会心理学演習Ⅰ 社会心理学演習Ⅴ	社会心理学研究法Ⅰ 社会心理学研究法Ⅴ 社会心理学特論Ⅳ 社会心理学演習Ⅱ 社会心理学演習Ⅵ	社会心理学研究法Ⅱ 社会心理学特論Ⅰ 社会心理学特論Ⅴ 社会心理学演習Ⅲ 社会心理学総合研究	社会心理学研究法Ⅲ 社会心理学特論Ⅱ 社会心理学特論Ⅵ 社会心理学演習Ⅳ
法 学	私 法 学	民法特論Ⅰ 民法演習Ⅲ 商法特論Ⅱ 企業法演習 法哲学特論 国際私法演習	民法特論Ⅱ 民法演習Ⅳ 商法演習Ⅰ 民事訴訟法特論 外国法(英法) 知的財産権法演習	民法演習Ⅰ 民法演習Ⅴ 商法演習Ⅱ 民事訴訟法演習Ⅰ 外国法(独法) 労働法演習	民法演習Ⅱ 商法特論Ⅰ 商法演習Ⅲ 民事訴訟法演習Ⅱ 外国法(仏法) 経済法演習
	公 法 学	憲法演習Ⅰ 行政法演習Ⅱ 刑事訴訟法特論 租税法演習 国際公法特論	憲法演習Ⅱ 行政学演習 刑事訴訟法演習 法哲学特論 国際公法演習	憲法演習Ⅲ 刑法特論 刑事政策特論 政治学演習 外国法(英法)	行政法演習Ⅰ 刑法演習Ⅰ 租税法特論Ⅰ 比較法思想史演習 刑法演習Ⅱ 租税法特論Ⅱ

経営学	経営学	経営学特論 A/B 経営管理特論 A/B 財務会計論特論 A/B 監査論特論 A/B 国際金融特論 A/B	経営学演習 A/B 経営管理演習 A/B 財務会計論演習 A/B 監査論演習 A/B 国際金融演習 A/B	経営史特論 A/B 企業論特論 A/B 管理会計論特論 A/B 税務会計論特論 A/B 経営財務特論 A/B	経営史演習 A/B 企業論演習 A/B 管理会計論演習 A/B 税務会計論演習 A/B 経営財務演習 A/B
経済学	経済学	[社会] 上級ミクロ経済学 財政学Ⅱ 公共経済 金融論 日本経済史 〔地理歴史〕 日本経済史 経済発展論 〔公民〕 上級ミクロ経済学 財政学Ⅲ 地域経済 環境経済	上級マクロ経済学 財政学Ⅲ 社会経済システム 地域経済 統計・計量経済学 経済学説 アジア経済	経済政策 財政学Ⅳ 情報経済 経済学説 環境経済 西欧経済史 社会経済システム	財政学Ⅰ 財政学Ⅴ 労働経済 国際経済 財政学Ⅱ 公共経済 統計・計量経済学 情報経済
		<p>※環境学研究コースの学生は、履修の際、以下の点に注意してください。</p> <p>「統計・計量経済学」を履修する場合は、経済学研究コースで開講している「統計・計量経済学」と合併開講されている年度に履修してください。「統計・計量経済学Ⅱ」と合併開講されている年度に履修しても無効です。</p> <p>「環境経済」を履修する場合は、経済学研究コースで開講している「環境経済」を他コース科目として履修してください。「環境経済学」と合併開講されていますが、「環境経済学」を履修しても無効です。</p>			
工学	機能システム	[理科] 流体力学特論 ナノ熱統計力学特論 オプトエレクトロニクス特論 ナノエレクトロニクス特論 脳科学特論 〔工業〕 生産システム工学特論 計算工学特論 センシング工学特論 数値流体工学特論	エネルギー変換特論 機能材料特論 電子デバイス特論 電子物性工学特論 マイクロメカトロニクス・制御特論 人間工学特論 マイクロマシン工学特論 数値構造工学特論	バイオメカニクス特論 半導体工学特論 プラズマエレクトロニクス特論 バイオ科学とナノテクノロジー概論 知的機能システム特論 ロボット工学特論 機能システム特別講義	最適化学特論 ソフトマター特論
	バイオ・応用化学	先端有機化学特論 先端分析化学特論 環境化学特論 グリーンエンジニアリング特論 環境機器分析特論 タンパク質工学特論 応用微生物工業化学特論 結晶工学特論 ナノサイエンス特論	先端無機化学特論 先端バイオテクノロジー特論 フォトケミストリー特論 遺伝子工学特論 天然高分子特論 有機材料科学特論 固体材料化学特論 高分子材料科学特論	先端物理化学特論 大気化学特論 エコロジー特論 グリーン合成化学特論 応用生物有機化学特論 バイオプロセスエンジニアリング特論 無機材料科学特論 材料機器分析特論 電気化学・エネルギー材料特論	
	環境・デザイン	空間デザイン 都市計画デザイン 建築計画特論 ビルディングシステム メンテナンス計画 建築環境工学 地球環境工学 木質構造学特論 環境材料工学 構造設計学 都市環境政策学 環境解析システム	都市・建築論 環境・デザイン特別設計Ⅰ 生活空間計画 まちづくり計画 環境計測工学 流域圏環境システム 環境分析 構造解析学特論 地盤環境工学 建設産業経営 環境建設マネジメント 循環資源マネジメント	ランドスケープ・デザイン 環境・デザイン特別設計Ⅱ 住環境計画 都市保全システム 建築環境・設備計画 水圏環境工学 環境経済論 構造材料学特論 都市建設材料工学特論 地域生産システム 基盤システム工学	

工 学	情報システム	[情報]
		VLSI コンピュータアーキテクチャ オペレーティングシステム特論 ネットワークアーキテクチャ 分散処理論 プログラミング論 コンピュータグラフィックス特論 システムシミュレーション工学 アルゴリズム論 マルチメディアコンテンツ マルチメディア論 データベース技法 パターン知能情報論 知識情報処理論 光コンピューティング データマイニング 色彩工学 情報セキュリティ 電気通信工学特論 電力システム解析シミュレーション 半導体数値シミュレーション

注意：本表について、後日補足される科目がある場合、「別表2補足」として掲示する。
2010年度以前入学生については、当該入学年度の要覧で確認すること。

12. 大学院紀要

1. 目的

「大学院紀要」は、教員および学生の真摯な学問的成果を發表することを目的とする機関誌であり、文学・社会学・法学・経営学・経済学・国際地域学・福祉社会デザイン研究科の各研究科において年1回発行している。

2. 大学院紀要への応募要領

2007年度から、学術論文としての質的向上と大学院生および修了生等の継続的指導を目的として、査読制を導入している。提出された論文は、研究指導担当教員と1名以上の匿名審査者によって審査され、必要に応じて投稿者との間で複数回の校正作業を行う。提出に必要な書類等は、5月中旬から各キャンパス窓口にて配布する。

(1) 応募資格

- 1) 大学院担当の専任教員…査読なし
- 2) 研究指導教員の推薦を得た大学院生および大学院修了者（含む満期退学者）…博士後期課程修了者については査読なし

(2) 原稿枚数（厳守）

- 1) の該当者……32,000字以内（図表等を含む）
 - 2) の該当者……16,000字以内（図表等を含む）
- （ただし、博士後期課程在学中の大学院生は24,000字以内）

(3) 原稿締切日

- 論文題目届・論文要旨の提出締切……2011年6月25日（土）まで
「予定題目届」と要旨（A4一枚程度）を各キャンパス担当窓口へ提出する。予定題目等を提出しなかった者は、論文を投稿することができないので注意すること。
- 論文原稿・提出届提出期間……2011年9月26日（月）～28日（水）
「論文」「執筆言語以外の要旨」「提出届」等を各キャンパス担当窓口へ提出する。
- 修正原稿提出期間……2011年11月25日（金）・26日（土）・28日（月）
指導に応じて修正作業が行われた最終論文と、データが入ったフロッピーディスクまたはCD-Rを、各キャンパス担当窓口へ提出する。

(4) 提出するもの

2011年6月25日（土）

- ①予定題目届（所定フォーマットあり）
- ②要旨（A4一枚程度）※査読のない者については、「要旨」の提出は不要。

2011年9月26日（月）～9月28日（水）

- ①提出届（所定フォーマットあり）……「応募資格2）」の該当者は、研究指導担当教員による署名・捺印による推薦を得ること。修了者（および満期退学者）で在学時の指導教員が退職等で不在の場合は、研究科委員長または専攻主任より推薦を得ること。

② Web 公開について (所定フォーマットあり)

③ 論文原稿……完成原稿で 2 部提出 (査読のない者は 1 部)。パソコン (MS ワード) での作成を原則とする。

④ 執筆言語以外の要旨……原則として英語で作成すること。2 部提出 (査読のない者は 1 部)

※ 査読のない者については今回が最終締め切りとなるので、論文と執筆言語以外の要旨のデータの提出も必要。フロッピーディスクまたは CD-R を添付 (原稿の中に図や写真がある場合は、それをワードに貼り付けず元の形のまま (エクセル等) フロッピーディスク等に入れ提出すること)。

2011年11月25日 (金)・26日 (土)・28日 (月) 査読のない者については不要

① 提出届 (所定フォーマットあり)

② 論文原稿……審査員の指導を受け、校正した最終原稿とデータ

③ 執筆言語以外の要旨……審査員の指導を受け、校正した執筆言語以外の要旨とデータ

④ 論文原稿および執筆言語以外の要旨データを入れたフロッピーディスクまたは CD-R

(5) 査読審査について

査読期間中、研究指導担当教員を通じて評価等が伝えられる。

掲載の可否については、11月中旬に執筆者あてに通知する。(予定)

(6) 校正について

初校は12月末、再校は1月下旬の予定。

査読を経ているので、この時点の修正は認められない。誤字・脱字、「てにをは」を修正する程度とする。

(7) 刊行日

2012年3月末日を予定。論文掲載者は4月2日(土)～28日(木)の間に、各キャンパス担当窓口にて大学院紀要3冊、抜刷り50部、PDFファイルが入ったCD-Rを受け取りに来ること。

13. その他

(1) 学生に対する事務連絡等について

学生に対する事務的な連絡は、すべて掲示板を通して行うので、登校したら必ず掲示板を確認してください。

- ・ 白山キャンパス……5号館2階大学院教務課掲示板
- ・ 大手町サテライト……大手町サテライト内掲示板
- ・ 白山第2キャンパス……B棟2階B302教室前方廊下掲示板
- ・ 朝霞キャンパス……中央掲示板
- ・ 川越キャンパス……4号館1階教学課横大学院関係掲示板
- ・ 板倉キャンパス……2号館1階中央掲示板

また、事務連絡の主だったものについては、「東洋大学 Web 情報システム」(P.54項(5)参照)でも照会することができます。

(2) 学生証について

学生証は常に携帯し、教職員から請求があった場合はこれを提示しなければならない。学生証がないと、定期券の購入や通学証明書、学生旅客運賃割引証明書(学割)、その他の証明書等の発行が受けられず、図書館の利用もできません。万一紛失したときは、直ちに届け出て再発行すること(有料)。

(3) 留学生が一時帰国する場合について

留学生が一時帰国する場合、日本を出発する前に入国管理局へ行き、必ず「再入国許可証」の発行を受けて出国すること。「再入国許可証」を受けずに出国すると、日本へ戻る時、あらかじめビザを取得しなければ入国できなくなるので注意すること。また、一時帰国する場合は、大学の指導教員に連絡し、P.29の担当窓口にて「帰国届」を提出すること。在学中は帰国期間を定めずに帰国することはできない。

(4) 各種証明書について

証明書の種類	発行場所	発行に要する日数
在学証明書 成績証明書 修了見込証明書 健康診断証明書	証明書発行機	稼働日程内 即時発行
上記以外の証明書	文学・社会学・法学・経営学・経済学・ 福祉社会デザイン（社会福祉学・福祉社会 システム専攻）の各研究科：大学院教務課 国際地域学研究科：国際地域オフィス 工学研究科 } 川越事務部 教学課 学際・融合科学研究科 } 生命科学研究科：板倉事務部 教学課 福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン・ 人間環境デザイン専攻：朝霞事務部朝霞事務課	申し込み日から2日後 〔英文証明書〕等の特殊な証明書 は申し込み日を含めて8日後

※窓口時間・取扱日（証明書発行機を含む）は時期により変更されるので、掲示や本学ホームページで確認すること。

各種証明書の発行手数料等については、『学生生活ハンドブック』を参照すること。

(5) インターネットを利用した学生サービス

①東洋大学 Web 情報システム

履修登録・住所変更をはじめ、教員が事務局に届け出た休講などの情報が確認できる。

* 利用にはユーザ ID とパスワードが必要（入学時に配布した「情報システム利用通知書」で確認できる）。

詳しくは、『東洋大学情報システム利用ガイドブック』で確認すること。

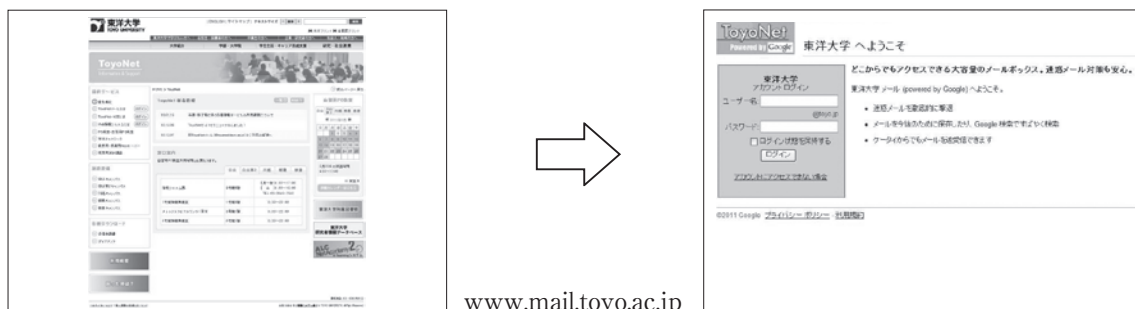


② ToyoNet メールサービス

本学では学生と教職員の教育コミュニケーションを目的に、学生全員にメールアドレスを配付している。

* 利用にはユーザ ID とパスワードが必要（入学時に配布した「情報システム利用通知書」で確認できる）。

詳しくは、『東洋大学情報システム利用ガイドブック』で確認すること。



14. 博士後期課程への学内推薦について

本学の博士前期課程・修士課程を、各専攻で定める基準以上の優秀な成績で修了予定の者は、本学博士後期課程へ進学するための学内推薦入試を受験することが可能である（基準等は各専攻により異なる）。

詳細は各キャンパス担当窓口にお問い合わせのこと。

15. 厚生労働大臣指定教育訓練講座（教育訓練給付金制度）

厚生労働省が定める一定の基準に該当する受給資格者（下記参照）が、本学の指定を受けた専攻・コースを修了（修士学位取得）した場合、大学に納入した入学金・授業料の一部（受給資格により金額は異なる）の給付を受けることができる制度である。

入学年度により適用されない場合もあるので、詳細は各キャンパス担当窓口で確認すること。

受給資格者

1. 雇用保険の一般被保険者

厚生労働大臣が指定した教育訓練の受講を開始した日（以下「受講開始日」という。）において、雇用保険の一般被保険者である者のうち、支給要件期間が3年以上（※）ある者。

2. 雇用保険の一般被保険者であった者

受講開始日において一般被保険者でない者のうち、一般被保険者資格を喪失した日（離職日の翌日）以降、受講開始日までが1年以内であり、かつ支給要件期間が3年以上（※）ある者。

3. 博士前期（修士）課程入学者

※初めて教育訓練の支給を受けようとする方については支給要件期間が1年以上。

教育訓練給付制度の利用について（手続き方法）

決められた日までに手続きを行わなかった場合は、制度の適用を受けることができません。

各キャンパス担当窓口申し出て、「①教育訓練給付金支給要件照会票」を受取ってください。



在住の最寄ハローワークに①を提出して「②教育訓練給付金支給要件回答書」を入手してください。

* 受講開始日は入学年月日を記入→ 春入学：2011年4月1日
秋入学：2011年9月24日



上記②のコピーを各キャンパス担当窓口へ提出 春入学：4月28日（木）締切
秋入学：10月28日（金）締切



前期課程（修士課程）修了時に「③教育訓練修了証明書」と「④教育訓練給付金支給申請書」を交付します。



上記③④を在住の最寄ハローワークへ提出してください。
注意：前期課程（修士課程）修了より1ヶ月以内に手続きを完了してください。



指定口座に給付金が振り込まれます。

教育訓練給付制度の適用を受けられる専攻・コース（2011年4月1日現在）

研究科	専攻・コース	研究科	専攻・コース
文学研究科	教育学専攻	工学研究科	機能システム専攻 バイオ・応用化学専攻 環境・デザイン専攻 情報システム専攻
社会学研究科	社会学専攻		
	社会心理学専攻		
法学研究科	私法学専攻	国際地域学研究科	国際観光学専攻
	公法学専攻	生命科学研究科	生命科学専攻
経営学研究科	全専攻・コース	福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻
			福祉社会システム専攻
経済学研究科	全専攻・コース		ヒューマンデザイン専攻
			人間環境デザイン専攻